

大阪商業大学学術情報リポジトリ

East Asian Social Survey 2012 Network Social Capital

Moduleの作成—日韓中台によるプリテスト調査票の作成—

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 公開日: 2019-07-16 キーワード (Ja): キーワード (En): EASS, social network, social capital 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/758

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



East Asian Social Survey 2012 Network Social Capital Module の作成 日韓中台によるプリテスト調査票の作成

曹 陽

中国科学院心理研究所

柴田 由己

大阪商業大学 JGSS 研究センター

岩井 紀子

大阪商業大学総合経営学部

East Asian Social Survey 2012 Network Social Capital Module:
The Development of Pretest Questionnaire in Japan, Korea, China, and Taiwan

Yang CAO

Institute of Psychology

Chinese Academy of Sciences

Yuki SHIBATA

JGSS Research Center

Osaka University of Commerce

Noriko IWAI

Faculty of Business Administration

Osaka University of Commerce

The purpose of the present paper is to outline the process of developing a cross-national questionnaire for the East Asian Social Survey (EASS) 2012 “Network Social Capital in East Asia (NSC Module)”. In particular, we will present the process of research design by reporting the research theme selection, the development of the module, and the results from JGSS pretest conducted in January 2011. Despite the geographical proximity, the social background of 4 EASS teams is distinctive, which made it difficult to reach consensus on theoretical and conceptual frameworks and specific questions. We could finalize the EASS 2012 NSC Module pretest questionnaire by referring to previous studies and holding repeated discussions. For the sake of further revision, two kinds of questionnaires (form-A and B) differing in the wordings of questions and number of choices and its scale were used in the pretest of JGSS. Based on the pretest results from 4 EASS teams, we plan to revise the questionnaire towards the implementation of the survey in 2012.

Key Words: EASS, social network, social capital

本稿の目的は、日本・韓国・中国・台湾が 2012 年に共同で実施する「東アジア社会調査 (East Asian Social Survey : EASS) に組み込む「東アジアにおけるネットワークと社会関係資本 (Network Social Capital in East Asia: NSC)」のモジュールの作成過程を紹介することである。テーマの決定から、モジュール作成のプロセス、および、2011 年 1 月に日本チーム(JGSS) が実施したプリテストの結果を報告する。同じ東アジアに位置するとはいえ、4 チームの社会的背景が異なるために、概念枠組みや具体的設問について合意を得ることは難しかったが、先行研究の結果を参照し、徹底的に協議を重ねたことで、プリテストで用いるモジュール案の確定に至った。JGSS は、モジュール案をさらに改善するために、プリテストにおいて、ワーディングや選択肢が異なる 2 種類の調査票 (A 票と B 票) を用いた。4 チームによるプリテストの結果に基づいて、モジュール案をさらに改訂する予定である。

キーワード : EASS , 社会的ネットワーク, 社会関係資本

1. はじめに

2003年にスタートした東アジア社会調査(East Asian Social Survey: EASS)は、日本・韓国・中国・台湾が共同で進めている社会調査プロジェクトである。東アジア社会に特有の問題や関心に基づいて、4カ国・地域に共通する設問群(モジュール)を作成し、国際比較分析が可能なデータを構築し、公開することを目的としている⁽¹⁾。EASSは、日本・韓国・中国・台湾のそれぞれで総合的社会調査を企画・実施している研究機関が協力して進めており、日本はJapanese General Social Surveys(JGSS:大阪商業大学JGSS研究センター)、韓国はKorean General Social Survey(KGSS:成均館大学サーベイ・リサーチ・センター)、中国はChinese General Social Survey(CGSS:中国人民大学社会学系・西安交通大学实证社会科学研究所)、台湾はTaiwan Social Change Survey(TSCS:中央研究院社会学研究所)がこれにあたっている。以下、本稿ではこれら4カ国・地域のチームをJGSS(日本チーム)、KGSS(韓国チーム)、CGSS(中国チーム)、TSCS(台湾チーム)で表す。

EASSでは、2006年から2年に1回のペースで調査を実施している。調査ごとにテーマを定め、第1回調査であるEASS 2006は「東アジアの家族(Families in East Asia)」、第2回調査のEASS 2008は「東アジアの文化とグローバリゼーション(Culture and Globalization in East Asia)」、第3回調査のEASS 2010は「東アジアにおける健康と社会(Health and Society in East Asia)」、そして本稿で取り上げる第4回調査のEASS 2012は「東アジアにおけるネットワークと社会関係資本(Network Social Capital in East Asia: NSC モジュール)」である。

EASSでは、それぞれの国・地域で調査を実施したのち、4チームのデータを統合して、East Asia Social Survey Data Archive(EASSDA)からデータセットを公開している。4チームのデータの統合とクリーニングはJGSSが担当しており、コードブック・基礎集計表(日本語版)を編集・刊行している。EASSDAは、これを基に英語版のコードブック・基礎集計表を作成している。EASS 2006のデータセットは、2009年2月に公開され、EASS 2008のデータセットは、2010年12月に公開された。EASS 2010のデータセットは2012年12月に、EASS 2012のデータセットは2014年12月に公開される予定である。

EASSの事務運営については、4チームが事務局とモジュールの議長(convener)を順番に務めることになっている。EASSの現在の事務局長(2010-2011)はCGSSの邊燕杰(ミネソタ大学社会学部教授・西安交通大学人文社会科学学院院长・实证社会科学研究所长)であり、邊は、EASS 2012モジュールの議長も務めている。EASS 2012 NSCモジュールの日本におけるチームの議長は、この分野の専門家である池田謙一(東京大学大学院人文社会系研究科教授)であり、JGSSチームの事務局長である岩井紀子(JGSS研究センター長・大阪商業大学総合経営学部教授)とともに、JGSSチームの意見をとりまとめ、他のチームとの交渉を進めている。

EASS 2012モジュールは、2009年11月のGeneral Meeting(全体会議;台北)においてテーマが確定し、その後、2回にわたる会議(ソウルならびに大阪)を経て、2010年12月にプリテストで用いる調査票が確定した。4チームは、2011年1月~4月の間にプリテストを実施し、2011年5月にその結果を持ち寄り(大阪) NSCモジュールの確定に向けて協議する。2011年11月にもう一度会議をもち(台北) 調査票を確定する。

本稿の構成は次の通りである。第2節では、NSCモジュールの作成と調査のスケジュールを紹介し、第3節では、JGSSが2011年1月から2月にかけて実施したプリテストの概要について述べ、第4節では、NSCモジュール作成のプロセスならびにプリテストの結果について詳細に論じる。

2. EASS 2012 モジュール作成のスケジュールとモジュール作成の経過

EASS 2012のモジュール作成と調査のスケジュールは、表1のとおりである。2009年11月の台北会議において、テーマを「東アジアにおけるネットワークと社会関係資本(Network Social Capital in East Asia: NSC モジュール)」に決定して以来、各チームはモジュール案を作成し、4チームの代表が会議の場ならびに電子メールで協議し、その結果を各チームのメンバーに連絡し、再び修正案を作成することを繰り返した。4チームの中では、JGSSが最も早く、2012年2月から本調査を開始するため、そ

れに合わせたスケジュールで準備が進められてきた。

NSC モジュールは、次のような経過をへて作成された。モジュール案の具体的な変遷については、次節に示す。

表1 EASS 2012 スケジュール

日 程	実施主体（開催地）	内 容
2009年11月18日～20日	EASS GM（台北会議）	テーマ決定「東アジアにおけるネットワークと社会関係資本（Network Social Capital in East Asia；NSC モジュール）」 [JGSS 参加メンバー：仁田・岩井]
2010年2月1日～15日	JGSS 運営委員会	EASS 2012 研究課題を一般公募
2010年2月28日	JGSS 運営委員会（センター）	EASS 2012 研究課題の審査、今後の方針とスケジュールの確認
2010年3月18日	日本チーム	EASS 2012 研究課題採択者は絞り込んだ設問を提出
2010年4月17日	日本チーム研究会（センター）	日本チーム案を作成
2010年5月21日～22日	EASS DGM（ソウル会議）	枠組みについて各チームの案が紹介された後、JGSS が用意した具体的設問が議論され、21問が共通設問として確定
2010年6月30日	日本チーム	ソウル会議での議論を踏まえメンバー全員が修正案を提出
2010年7月27日	日本チーム	修正案を作成
2010年8月1日	日本チーム（東京大学）	日本チームの修正案を協議 [参加メンバー：池田・仁田・岩井]
2010年8月4日	日本チーム	日本チームの修正案に関する理論的根拠をまとめる
2010年8月6日	日本チーム	72問(上記21問含む)からなる日本チーム案を NSC 議長に提出
2010年9月5日	NSC 議長	4チームからの提案を110問に絞り込んだ案を作成・送付
2010年10月15日	日本チーム	NSC 議長案に対する日本チームのコメントを送付
2010年10月25日	台湾チーム	NSC 議長案に対する台湾チームのコメントを送付
2010年11月24日	日本チーム研究会（センター）	台湾チームのコメントを踏まえ日本チームのコメントを再修正
2010年11月26日～27日	EASS GM（大阪会議）	NSC 議長案と4チームのコメントを基に各設問を修正
2010年12月3日	NSC 議長	大阪会議でまとまった案を整理して4チームに送付
2010年12月8日	各チーム	大阪会議案に対する各チームのコメントを NSC 議長に提出
2010年12月10日	NSC 議長	92問に絞り込んだプリテスト用のモジュールを4チームに送付
2010年12月22日	日本チーム	第1回プリテスト調査票のA票とB票の内容を確定
2011年1月	JGSS 第1回プリテスト	東大阪市、20～89歳男女400人、2段無作為抽出法、郵送法（A・B票の2種類の調査票で実施）
（以下は予定）		
2011年4月	日本チーム研究会（センター）	JGSS 第1回プリテストの結果に基づき修正案作成
2011年4月	KGSS プリテスト	-
	CGSS プリテスト	-
	TSCS プリテスト	-
2011年5月20日～21日	EASS GM（大阪会議）	NSC モジュールの確定（暫定）
2011年8月	JGSS 第2回プリテスト	東大阪市、20～89歳男女400人、2段無作為抽出法、郵送法
2011年11月	日本チーム研究会（センター）	JGSS 第2回プリテストの結果に基づき修正案作成
2011年11月	EASS DGM（台北会議）	NSC モジュールの最終確定 [JGSS 参加メンバー：池田・岩井]
2012年2月	JGSS-2012 調査実施	全国、20～89歳の男女個人9,000人、層化2段無作為抽出法、面接法と留置法を併用；留置票は2種類（留置B票にEASS「ネットワークと社会関係資本モジュール」を組み込む）
2012年6月	KGSS 2012 調査実施	-
2012年7月	TSCS 2012 調査実施	-
2012年9月	CGSS 2012 調査実施	-

注：GM は General Meeting（全体会議）、DGM は Drafting Group Meeting（調査票作成部会）の略称。

2009年11月の台北会議で、EASS 2012のテーマが「東アジアにおけるネットワークと社会関係資本」に確定した後、JGSSは、ホームページや関連学会のメールマガジンを通して、NSCモジュールの研究課題の公募を開始した（2010年2月15日締切）。JGSS研究センター運営委員会による書類審査と面接審査（研究課題のプレゼンテーション）をへて、最終には次の6件の研究課題が採用された。「東アジアの社会関係資本は文化を超えて豊かな効果を及ぼすか」、「垂直的・水平的ネットワークの多様性を用いた弱い靱帯の測定」、「プロダクティブ・アクティビティにかかわる心理的要因の検討」、「社会関係資本と移民・マイノリティに対する寛容さに関する研究」、「社会関係資本が寛容性に及ぼす効果」、「防災行動と社会関係資本の関連」である。ただし、いずれの研究課題も提案された設問数が10問を超えていたため、それぞれ2~3変数に絞ることと、既存の関連資料を整理することを求めた。6名からは3月18日までに修正案と関連資料が提出された。

2010年4月に入ると、公募研究者の研究課題も取り入れた最初のモジュールの作成が始まった。2009年11月の台北会議では、テーマだけではなく、社会関係資本の3つの重要な軸を測定することについて4チームが合意していた。3つの軸とは、A)社会関係資本を形成する「社会的ネットワーク(Social Network)」、B)社会関係資本が活用される「社会参加(Social Engagement)」、C)社会関係資本の構築の基礎となる「社会的信頼感(Social Trust)」である。NSCモジュールの日本議長である池田が、自身が関わった調査を含め、国内外のさまざまな先行調査や尺度の信頼性・妥当性を整理した文献などを参照しながら、この3つの軸のそれぞれを測定することができるたたき台となる調査票を作成した。EASSモジュールについては、約60問(多項選択はそれぞれを1問と数える)を目安とすることになっているが、この段階では86問であった。

4月17日に、日本チームの第1回研究会が開かれ、たたき台を基に調査票の枠組みと測定方法について協議した。ソウル会議の直前まで、日本案の練り直しを続け、社会的ネットワーク関連の設問が34問、社会参加の設問が23問、社会的信頼感の設問が5問、関連設問が1問の計63問に絞り込んだ。これ以降、日本チームの修正案を文書に反映させる作業は、JGSS研究センターのポスドクトラル研究員(当時)の曹が担当した。

5月21日~22日に、EASS Drafting Group Meetingが成均館大学(ソウル)で開催され、4チームは、それぞれの理論的枠組みを紹介した。日本チームはさらに、上記の具体的なモジュール案を提示した。この案をたたき台として議論が繰り広げられ、21問はほぼそのままNSCモジュールに採用されることが決まった。また、NSCモジュールの概念枠組みを下記のように設定し、それぞれの測定を目指すことを決めた。

- A. **Social networks:** measuring potential and mobilized social capital
 - Potential: presence and properties of group and interpersonal connections
 - Mobilized: relational mobilizations measured by job search, social eating, favor getting, etc.
- B. **Social engagement:** measuring behavioral dynamics and outcomes of social capital
 - Daily social tolerance
 - Local social participation
 - Voluntary activities of public interest
 - Political participation
- C. **Social trust:** measuring community-level dynamics and outcomes of social capital
 - One battery to measure particular, universal, and institutional trust
 - One scale to measure values toward human nature, which helps evaluate trust responses
- D. **Other items** of relevance to social capital and its dynamics and outcomes
 - Open for discussion

また、各チームは8月15日までに、上述した21問を含む60問からなるモジュール案を作成してNSC議長に提出し、NSC議長はこれらの案を基に9月半ばまでに110問に絞り込んだ案を4チームに提示することが決まった。

6月～7月の間に、日本チームは、ソウル会議での議論と結果を受けて、メンバー全員から修正案を求め、日本チームのモジュール案を練り直した。8月1日に、ソウル会議の出席者が会議をもち、日本チームのモジュール案をさらに詰めた。設問の理論根拠に関するコメントを池田が組み込み、8月6日にNSC議長に提出した。この時点では、社会的ネットワーク関連の設問が35問、社会参加の設問が27問、社会的信頼感の設問が5問、関連設問が5問の計72問であった。中国チームは7月25日(60問)に、台湾チームは8月16日(66問)に、韓国チームは8月25日(69問+Ego-centric network 設問50問)に、モジュール案を提出した。

9月5日にNSC議長から、4チームの提案を91問に絞り込んだ案が届いた。91問のうち、4チームが共通して提案した設問が18問、3チームが提案した設問が3問、2チームが提案した設問が21問であった。合意に至らなかった設問は59問に上った。とくに、日本チームの場合は、過去のEASSやJGSSから選択して提案した設問はほとんど採用されたが、2月の公募で採択され練り上げた新規の設問はほぼすべて採用されなかった。日本チームは、NSC議長案を詳細に検討し、日本における過去の類似調査での分布や分析結果を基に、日本チームの新規設問を組み込むことの意義をまとめ直した。また、英語版のモジュールを日本語に訳す段階で明らかになった、設問のリード文や選択肢の不具合をリストアップした。英語の表現の中には、日本語を含む漢字文化圏では表せない表現がある。日本チームはこれらのコメントを10月15日にNSC議長に提出し、台湾チームは10月25日に提出した。

日本チームは、大阪会議の直前の11月24日の夜に研究会をもち、台湾チームが10月25日に提出したコメントを踏まえて、日本の修正案を再度見直した。

2010年11月25日から、JGSSが主催した大阪会議が開かれた。韓国チームは3名が、中国チームは4名が、台湾チームは6名が参加し、日本チームはEASS 2012の設問提案者3名とJGSS研究センター運営委員5名とJGSS研究センターポストドクトラル研究員4名の計12名が参加した。26日に7時間、27日に4時間、合計11時間をかけて、EASS 2012モジュールに関するディスカッションと修正を行った。NSC議長が進行役を務め、10月25日付TSCSコメントと11月25日付JGSSコメントの両者を記載したモジュール案を1問ずつ確認・修正し、各国の言語で翻訳のズレがあるか否も含めて検討した。4チームの研究者は、それぞれの主張と過去の経験を踏まえながらも、他のチームの実情を考慮して、4チームが共に合意できるモジュールの作成に努力した。議論は、会議終了予定時刻を大幅に上回りながらも続けられ、プリテストに用いるモジュールはほぼ完成した。

大阪会議が終了した翌日から、JGSSは会議中に記録したモジュールのメモの整理にとりかかり、問題点や不明点に関するコメントと修正箇所を記載した資料を、NSC議長に送付した。議長はこの資料を確認した上で、大阪会議案を作成し、12月3日に4チームに届けた。4チームは12月8日までに大阪会議案を確認し、NSC議長は12月10日に、92問からなるプリテスト用のモジュールを確定した。

JGSSでは、モジュールの作成・修正過程において、常に英語版に対応する日本語版を作成している。したがって、EASS 2012英語版モジュールが確定後まもなく、JGSS第1回プリテスト調査票A票とB票の内容が確定した。EASS 2012の設問提案者とJGSS研究センターの運営委員に、調査票を送付してコメントを求めた。翻訳に関していくつかのコメントが寄せられ、これらのコメントを反映させて、12月22日にプリテストの調査票が完成した。

3. JGSS 第1回プリテストの概要

JGSSによる第1回プリテストの概要は以下のとおりである。東大阪市に居住する20-89歳の男女から2段階抽出した400人を対象に、2011年1月に郵送法で調査票を配布し、同じく郵送にて回収した。有効回収数は196であり、回収率は49.0%であった(2011年2月14日時点)⁽²⁾。本プリテストでは、検討すべきポイントを確実に検討できるように調査票の設計を行った。すなわち、質問文のワーディングや選択肢が一部異なるA票とB票の2種類の調査票(資料A)を用い、比較検討を可能にした。

4. NSC モジュール作成のプロセスならびにプリテストの結果

4.1 NSC モジュールの 3 つの軸 社会的ネットワーク、社会活動、信頼感

EASS 2012 NSC プリテスト用モジュールは、主に 3 つの部分から構成されている。ソウル会議で決定した枠組みとほぼ同じであるが、いくつかの指標が新たに加わっている。

A. **Social networks**: measuring potential and mobilized social capital

A1-A5: Presence and properties of group and interpersonal connections

A6-A8: Mobilizations of social capital through job search, social eating, and social support

B. **Social engagement**: measuring behavioral dynamics and outcomes of social capital

B1: Daily social tolerance

B2: Local social participation

B3: Voluntary activities of public interest

B4: Collective efficacy

B5: Political participation

B6: Political interest and efficacy

C. **Social trust**: measuring community-level dynamics and outcomes of social capital

C1: One battery to measure particular, universal, and institutional trust

C2: Human nature

C3: Trust norm

D. **Other items** of relevance to social capital and its dynamics and outcomes

Open for discussion

Number of items: 39 + 29 + 18 + 6 = 92 items

第 1 部は、社会的ネットワークを測定する設問群で 39 項目からなる。会や組織への参加の有無や参加状況、親族や非親族の接触ネットワーク、ネットワークの多様性と異質性、求職ネットワーク、会食のネットワーク、サポートネットワークなどを測定する。第 2 部は、社会参加に関する設問群で 29 項目からなる。日常行動における社会的寛容性、地域の集会や会合への参加、近所づきあい、ボランティア活動への参加、自然災害に対する地域の対応力、政治活動への参加、政治意識などを測定する。第 3 部は、人々や機関への信頼を測定する設問群で 18 項目からなる。親族・友人をはじめさまざまな職業についている人々、ないし、さまざまな機関・組織に対する信頼感（最終的にはいずれかに絞る）人間の本性についての考え方や信頼の規範を測定する。このほか、主観的健康感、地域での居住年数、人生に対する自己効力感、不動産総額、預貯金総額、株や債権総額など、社会関係資本と関連するとみられる設問群が 6 問から構成されている。日本では、不動産総額、預貯金総額、株や債権総額は尋ねない。

2010 年 12 月に確定した NSC モジュールの最初のたたき台は、日本チームが 2010 年 5 月のソウル会議で提案したものである。他のチームと協議・交渉する過程において、各設問は加筆・修正された。国際比較可能なモジュールを作成するプロセスを明らかにするために、その変更経緯を以下に述べる。なお後述するように、日本チームはプリテストに際して、split-ballot の方法でサンプルを 2 群に分け、設問によってはリード文や選択肢が若干異なる 2 種類の調査票（A 票と B 票）を用いた。下記では、A 票と B 票の違いも示す。

4.2 社会的ネットワーク・社会参加・社会的信頼

4.2.1 ボランタリな組織への参加率

日本チームはソウル会議において、人々の社会的ネットワークを把握する設問として、「団体や組織への参加」設問を NSC モジュールに入れることを提案した。この設問は、アメリカの GSS で繰り返し尋ねられており、JGSS でも繰り返し尋ねてきた設問であるが、選択肢は NSC モジュール用に修正した。ソウル会議と大阪会議での議論をへて、リード文と項目および選択肢を変更した。リード文

と選択肢の変更は、主として翻訳にかかわるものである。一方、項目については、「スポーツ関係のグループやクラブ」と「趣味の会」をひとつにまとめた。また、社会によって、労働組合や業界団体・同業者団体のあり方が異なることから、リストに労働組合を加え、「業界団体・同業者団体」のほかに「専門職協会・学術団体」を追加した。JGSS プリテスト A 票では他のチームと同じように尋ねているが、B 票では日本の状況を配慮して両者を分けずに尋ねている。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票)	JGSS プリテスト調査票 (B 票)
<p>[リード文]あなたは、次にあげる団体や組織、グループに入っていますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 政治関係の団体や会 B 業界団体・同業者団体 C 地縁組織(自治会・町内会・子ども会など) D ボランティア・NPO E 市民運動・消費者運動のグループ F 宗教の団体や会 G スポーツ関係のグループやクラブ H 趣味の会(コーラス・写真・山歩きなど)</p> <p>[選択肢]</p> <p>メンバーとして積極的に参加している/メンバーになっている程度/メンバーではない</p>	<p>[リード文]あなたは、次にあげる団体や会や組織に入っていますか。入っている場合は、どの程度積極的に参加していますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 政治関係の団体や会 B 地縁組織(自治会・町内会) C ボランティア・NPO D 市民運動・消費者運動のグループ E 宗教の団体や会 F 同窓会 G 趣味の会やスポーツクラブ H 労働組合 I 専門職協会・学術団体 J 業界団体・同業者団体</p> <p>[選択肢]</p> <p>積極的に参加している/入っているが、積極的には参加していない/入っていない</p>	<p>[リード文]A 票と同様</p> <p>[項目]</p> <p>A 政治関係の団体や会 B 地縁組織(自治会・町内会) C ボランティア・NPO D 市民運動・消費者運動のグループ E 宗教の団体や会 F 同窓会 G 趣味の会やスポーツクラブ H 労働組合 I 業界団体・同業者団体・専門職協会・学術団体</p> <p>[選択肢]</p> <p>A 票と同様</p>

プリテストの結果、A 票の「専門職協会・学術団体」の参加率は低く(2.6%)、A 票の「業界団体・同業者団体」への参加率と B 票の「業界団体・同業者団体・学術団体・専門職団体」への参加率は、ともに 9.2%で、違いがない。したがって、参加率の低い「専門職協会・学術団体」を設問から除外する、もしくは、「業界団体・同業者団体・学術団体・専門職団体」をまとめて1つの項目とすることが、回答者の負担軽減につながると思われる。この設問では項目によって、参加率が 3.6%から 51.0%までと、ばらつきが大きく、どの項目についても無回答の割合が 12.8%から 17.2%までと高い。「はい」「いいえ」の2値で設問を設定した JGSS-2008 と JGSS-2006 では、無回答率は低かった(JGSS-2008 で 1.1%~1.6%、JGSS-2006 で 1.2%~2.0%)。したがって、本プリテストにおける無回答率の高さは、従来と異なる選択肢を用いたことが影響を与えている可能性が考えられる。今後は、他のチームのプリテストの結果と突き合わせて、項目を精査すると同時に、無回答を減らす工夫をする必要がある。

4.2.2 参加率の高い組織の組織特性

日本チームはソウル会議において、人々がボランタリに参加している団体や組織の「組織特性—階層性・同質性・開放性—」を測定することを提案した。ソウル会議と大阪会議での議論をへて、最終的に、3つの組織特性のうち、階層性と同質性を測定することについては、他のチームから同意が得られた。一方、組織におけるこれらの特性についてどのように尋ねるかについては、協議が重ねられた。日本チームの最初の案では「上下関係が明確かどうか」を「強くそう思う」から「強くそう思わない」の7件法で尋ねるものであったが、NSC 議長が4チームの提案をまとめる段階で、選択肢を“1. Between superiors and subordinates the authority lines are very clear; 2. There are superiors and subordinates, but members rotate in these roles; 3. There are not clear authority lines, and members are mostly equal to each other; 4. Members are fundamentally equal to each other”に変更した。

日本チームの中では、「もっとも多く参加した」会や組織ではなく、「もっとも積極的に参加した」会や組織について尋ねるべきではないかという意見があり、JGSSのプリテストにおいては、どちらがより適切なのかを検証するために、A票では「もっとも多く参加した」会や組織について、B票では、「もっとも積極的に参加した」会や組織について尋ねた。

同質性についても、日本の最初の場合では「あなたと異なる考え方や行動をする人がたくさんいるかどうか」を7件法で尋ねるものであったが、NSC議長は次の5つの選択肢案を提示した。“1. Most members are different from each other; 2. Many members are different from each other; 3. Some members are different from each other; 4. Few members are different from each other; 5. No clear differences are noticeable about the members.” しかしながら、日本語では、2番目と3番目の選択肢を訳し分けるのが難しく、選択肢の数を階層性の設問と同じにする意味からも、大阪会議において4件法で尋ねることを提案し、採用された。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票)	JGSS プリテスト調査票 (B 票)
<p>[設問文]過去1年間でもっとも参加の回数が多かった団体・組織では、人々の上下関係が明確ですか。</p> <p>[選択肢] 強く思う / そう思う / どちらかといえばそう思う / どちらともいえない / どちらかといえばそう思わない / そう思わない / 強くそう思わない</p>	<p>[設問文]過去1年間に、あなたがもっとも多く参加した会や組織のなかの人間関係は、以下の記述のうちどれにもっとも近いですか。</p> <p>[選択肢] 上下関係が非常に明確である / 役割としての上下関係はあるが、ときどき役割を交代する / 上下関係は明確ではなく、だいたい平等である / 完全に平等な関係にある</p>	<p>[設問文]過去1年間に、あなたがもっとも積極的に参加した会や組織のなかの人間関係は、以下の記述のうちどれにもっとも近いですか。</p> <p>[選択肢] A票と同様</p>
<p>[設問文]過去1年間でもっとも参加の回数が多かった団体では、あなたと異なる考え方や行動をする人がたくさんいますか。</p> <p>[選択肢] 強く思う / そう思う / どちらかといえばそう思う / どちらともいえない / どちらかといえばそう思わない / そう思わない / 強くそう思わない</p>	<p>[設問文]過去1年間に、あなたがもっとも多く参加した会や組織の人たちの考え方や行動は、お互いに異なりますか。</p> <p>[選択肢]ほとんど全員が同じ考え方や行動をしている / 同じ考え方や行動をしている人が多い / 同じ考え方や行動をしている人は少ない / ほとんど全員が異なる考え方や行動をしている</p>	<p>[設問文]過去1年間に、あなたがもっとも積極的に参加した会や組織の人たちの考え方は、お互いに異なりますか。</p> <p>[選択肢] A票と同様</p>

プリテストの結果、階層性についても同質性についても、「もっとも多く参加している」会や組織について尋ねた場合 (A 票) と、「もっとも積極的に参加している」会や組織について尋ねた場合 (B 票) と間には、分布に違いはなかった。したがって、頻度と心理的関わりのどちらに焦点を当てた設問を設定するかについては、測定したい構成概念を4チームで再度協議して、決定することになる。

4.2.3 親族と友人の接触ネットワーク

日本チームはソウル会議において、「親族と友人の接触ネットワーク」をEASS 2008 Culture モジュールで用いた設問 (選択肢を一部変更) で、測定することを提案した。2問を入れることには賛同が得られたが、9月のNSC議長案では、接触人数を自由回答の方式で尋ねることに変更された。日本と台湾チームは、カテゴリー方式を主張し、日本チームは、JGSSがEASS 2008のプリテストで得た分布を示し、両方式による回答結果の違いを説明した。無回答の割合は、カテゴリー方式では0%であるが、自由回答方式では6.7%にのぼる。大阪会議の結果、選択肢はカテゴリー方式とすること、また、選択肢は、EASS 2008 Culture モジュールと同一とすることにした。

日本チームは、ソウル会議において、友人ネットワーク (家族や親類以外の親しい人) の規模と、その階層性について尋ねることを提案した。ソウル会議では他のチームの賛同を得られなかったが、大阪会議での協議の結果、友人ネットワークの規模は尋ねないけれども、友人ネットワークの階層性については、選択肢を答えやすいように修正して、尋ねることになった。

ソウル会議での日本の提案	大阪会議での日本提案	JGSS プリテスト調査票 (A票・B票)
<p>[設問文]あなたがふだん1日に接する家族や親類は、同居している人を除いて何人くらいですか(電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます)。</p> <p>[選択肢]</p> <p>0人/1-4人/5-9人/10-14人/15-19人/20人以上</p>	<p>[設問文]あなたがふだん1日に接する家族や親類は、同居している人を除いて何人くらいですか(電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます)。</p> <p>[選択肢]</p> <p>0人/1-4人/5-9人/10-14人/15-19人/20-29人/30人以上</p>	<p>[設問文]あなたがふだん1日に接する家族や親類は、同居している人を除いて何人くらいですか(電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます)。</p> <p>[選択肢]</p> <p>0人/1-4人/5-9人/10-19人/20-49人/50-99人/100人以上</p>
<p>[設問文]家族や親類以外で…(以下は、上記設問と同じ)</p>	<p>[設問文]家族や親類以外で…(以下は、上記設問と同じ)</p>	<p>[設問文]家族や親類以外で…(以下は、上記設問と同じ)</p>
<p>[設問文]家族や親類を除いて、あなたには親しい人が何人くらいいますか。</p> <p>[選択肢]上記設問と同じ</p>	<p>[設問文]家族や親類を除いて、あなたには親しい人が何人くらいいますか。</p> <p>[選択肢]上記設問と同じ</p>	
<p>[リード文]親しい人のうち、以下に当てはまる人はどの程度いますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A あなたと同世代 B あなたの目上 C あなたの目下 D あなたと似た考え方や行動をする人 E あなたと考え方が違う人</p> <p>[選択肢]</p> <p>ほとんど全員/何人が/全くいない</p>	<p>[リード文]親しい人のうち、以下に当てはまる人はどの程度いますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A あなたと同世代 B あなたの目上 C あなたの目下 D あなたと似た考え方や行動をする人 E あなたと考え方が違う人</p> <p>[選択肢]</p> <p>ほとんど全員/何人が/全くいない</p>	<p>[設問文]家族や親類以外で、あなたがふだん1日に接する人たちは、以下の記述のうち、どれにもっとも近いですか。</p> <p>[選択肢]あなたより立場や地位の高い人が多い/あなたより立場や地位の低い人が多い/あなたと立場や地位がほぼ同じ人が多い/さまざまな立場や地位の人がいる/家族や親類以外で、ふだん1日に接する人はいない</p>

プリテストの結果、1日に接する親族の人数については、「0人」「1~4人」「5~9人」の3つのカテゴリーに回答の約90%が集中していた。一方、非親族については、「1~4人」が33.2%と最も多い一方で、「10~19人」(18.4%)や「20~49人」(14.8%)など、親族に比べてより多くの人と接触していることが明らかになった。したがって、親族については、0人から9人までの人数を細分化したカテゴリーを作成する必要があると考えられる。

4.2.4 垂直的ネットワークの異質性

ソウル会議で日本チームは、垂直的ネットワークの多様性をとらえる設問として、EASS 2008 Culture Module に用いた設問 (position generator) を NSC モジュールに組み込むことを提案した。一方、大阪会議では台湾チームが、position generator で提示するリストとして、職業分類ではなく、具体的な職業 (JGSS プリテスト調査票 B 票) を提示することを提案した。各チームのプリテストでは、split-ballot の方式で、2つのリストの有用性を確かめることになった。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票)	JGSS プリテスト調査票 (B 票)
<p>[リード文]あなたは、この中の(1)-(10)のような職業の知り合いがいますか。よく会話する知り合いを思い浮かべてください。</p> <p>[項目]</p> <p>A 議員・上級公務員・自治体幹部 B 管理職 C 専門職 D 技術支援職・専門補佐職 E 事務的職業 F サービス的職業・販売的職業 G 農林漁業従事者 H 技能工・職人 I 簡単な機械や乗り物の操作をする職業 J 特に熟練を要しない簡易な職業</p> <p>[選択肢]いる/いない</p>	<p>[リード文]あなたが、よく会話をする親類、友人、知り合いのなかで、以下のような職業をもつ人はいますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 議員・上級公務員・自治体幹部 B 管理職 C 専門職 D 技術支援職・専門補佐職 E 事務的職業 F サービス的職業・販売的職業 G 農林漁業従事者 H 技能工・職人 I 簡単な機械や乗り物の操作をする職業 J 特に熟練を要しない簡易な職業</p> <p>[選択肢]いる/いない</p>	<p>[リード文]あなたが、よく会話をする親類、友人、知り合いのなかで、以下のような職業をもつ人はいますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 大学教員 B 弁護士 C 看護師 D コンピューター・プログラマー E 中学校の教員 F 人事部長 G 農業従事者 H 美容師・理容師 I 受付係 J 警察官</p> <p>[選択肢]いる/いない</p>

プリテストの結果、それぞれの職業を有する知り合いが「いる」と回答した割合は、具体的な職業を対象とした B 票 (5.5% ~ 31.2%) に比べて、抽象的な職業分類を用いた A 票 (6.9% ~ 59.8%) の方が多かった。一方、B 票では 4 つの職業について、A 票ではすべての職業について、無回答率が 10% を上回った。EASS 2008 の第 2 回プリテスト (榎木, 2008) では、今回のプリテストの A 票と全く同じ 9 カテゴリーを用いた設問 (A 票) と、9 カテゴリーのうち 5 カテゴリーだけを用いた設問 (B 票) を比較した。その結果、A 票 (4.9% ~ 10.6%) の方が B 票 (0% ~ 4.8%) よりも、無回答率が高かった。このうち、A 票では、1 つの職業について無回答率が 10% (農林漁業従事者)、7 つの職業について無回答率が 5% を超えており、抽象的な職業の記述が回答の困難度を高めることが指摘されている。したがって、本プリテストにおける A 票の無回答率の高さも、職業記述の抽象性が影響したものと考えられる。

なお、EASS 2008 の無回答率は、日本で 3.2% ~ 5.1%、韓国で 0.1% ~ 0.3%、中国で 0%、台湾で 1.0% ~ 1.2% であった。日本の無回答率が他国に比べて高い理由は、他国が面接法で調査を実施しているためであろう。したがって、選択率がより高くなることを優先して A 票の職業分類を用いるのか、無回答率が減少することを優先して B 票の具体的な職業のリストを用いるのかの判断は、各チームのプリテストの結果に基づいて検討する必要がある。

4.2.5 ネットワークの地理的広がり

日本チームはソウル会議において、「水平的ネットワークの多様性」を測定することを提案した。水平的ネットワークの多様性を測定すること自体には賛同が得られたが、日常生活における人々の移動距離や外国人との接触機会が、社会や居住地域により大きく異なるため、どのような項目をとりあげるかについて、協議を重ねた。9 月の NSC 議長提案では「他の市町村」、「国内に住んでいる外国人」、「海外に住んでいる外国人」の知り合いという項目に変更されたが、日本では、ほぼすべての人が、他の市町村に住んでいる知り合いがいると想定されるので、より大きな地理的単位で (日本の場合は都道府県) で尋ねることを提案し、大阪会議で採択された。一方、中国では農村地域には外国人が住んでいないため、「国内に住んでいる外国人」の項目は削除するとともに、どこに住んでいるかにかかわらず「外国人の知り合い」がいるかどうかを尋ねることにした。

ソウル会議での日本の提案	9月のNSC議長提案	JGSS プリテスト調査票 (A票・B票)
<p>[リード文]あなたには、この中の1-3のような知り合いがいますか。</p> <p>[項目]</p> <p>1 アジア系の外国人</p> <p>2 欧米系の外国人</p> <p>3 国内で遠方に(3時間以上)居住している人</p> <p>[選択肢]いる/いない</p>	<p>[リード文]あなたには、以下のような知り合いはいますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 他の市町村に住んでいる知り合い</p> <p>B 国内に住んでいる外国人の知り合い</p> <p>C 海外に住んでいる外国人の知り合い</p> <p>[選択肢]いる/いない</p>	<p>[リード文]あなたには、以下のような親類、友人、知り合いはいますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 他の都道府県在住の知り合い</p> <p>B 海外に住んでいる親類、知り合い</p> <p>C 外国人の知り合い</p> <p>[選択肢]いる/いない</p>

プリテストの結果、親類・友人・知り合いが他の都道府県にいる率は非常に高く(94.9%)、都道府県という地理サイズでは、ネットワークの地理的な広がりを十分に把握できない結果が示唆された。今後、日常生活における移動距離と地理的な区分の規模が異なる日韓中台の間でも、意味のある比較ができるように、4チームのプリテストの結果を照らし合わせ、十分な検討を重ねる必要がある。

4.2.6 求職ネットワーク

ソウル会議の後、中国チームと台湾チームは、求職ネットワークに関する設問を提案した。この提案に対して日本チームは、入職経路についての雇用動向調査(厚生労働省)の結果を引用しながら、日本ではあまり意味がないことを説明した。雇用動向調査によると、「入職者」の割合は労働者全体の15%程度、そのうち「縁故入職者(前の会社からの紹介を除く)」は20%程度なので、全労働者のうち縁故入職者の割合は3%程度になる。JGSSにおける労働者の比率は約60%なので、JGSSサンプル全体に占める縁故入職者の割合は2%弱になると予想される。また、JGSS-2009 ライフコース調査では、初職に就くための就職活動ルートについて調べている。複数回答の結果、「学校推薦」と「学校での求人情報を見て直接応募」の割合が最も高く、約6割を占め、「家族や親せきの紹介」や「友人や知人の紹介」が2割~3割である。このように日本では、求職ネットワークをとらえる最適な設問ではないが、4チームはNSCモジュールに加えることにした。

大阪会議での資料(日本語)	JGSS プリテスト調査票 (A票・B票)
<p>[設問文]あなたが、現在/最後の仕事に就く前に、聞いてもいないのに、就職に関する有益な情報と機会を提供してくれた人はいましたか。</p> <p>[選択肢]いなかった/いた</p>	<p>[設問文]あなたが、現在の仕事につく前に、就職機会に関する情報を提供してくれた親類、友人、知り合いはいましたか。現在仕事についていない方は、最後についていた仕事についてお答えください。</p> <p>[選択肢]いた/いなかった/仕事についたことはない</p>
<p>[設問文]あなたが、現在/最後の仕事を獲得するまでの過程で、あなたに就職の情報をもたらした人は何人いますか(就職チャンスの提供、励みなどのあらゆる形のサポートを含む)。</p> <p>[選択肢]:()人</p>	<p>[設問文]現在の仕事を獲得する際に、あなたに協力してくれた親類、友人、知り合いは何人いましたか(情報提供、口利き、励ましなど)。現在仕事についていない方は、最後についていた仕事についてお答えください。</p> <p>[選択肢]0人/1人/2人/3人/4人/5人/6人以上</p>
<p>[設問文]それらのサポートは、その仕事を獲得するのに役立ちましたか。</p> <p>[選択肢]役立たなかった/ある程度役立った/非常に役立った</p>	<p>[設問文]その人たちからの協力は、仕事を獲得するのに役立ちましたか。</p> <p>[選択肢]役立たなかった/ある程度役立った/非常に役立った</p>

プリテストの結果、現職もしくは最後に就いていた職を得た際に、就職機会に関する情報を提供してくれた知り合いがいる回答者は約半数(46.9%)にのぼった。また、現在の仕事を獲得する際の協力者の数は、「0人」(20.9%)がもっとも多かったが、「6人以上」も11.2%であった。ただし、協力者の数とその有効性については無回答率が高い(12.2%と27.0%)。他のチームのプリテストの結果と突き合わせながら、無回答率を下げるように、ワーディングを工夫する必要がある。

4.2.7 会食のネットワーク

9月のNSC議長提案では、会食の機会に関して、「会食に招待する」、「会食に招待される」、「会食での新たな出会いの可能性」、「親族との会食の機会」の4つの設問が提案された。大阪会議において、日本では会食に招待したり、会食に招待されたりする機会は非常に少ないため、招待に限らず共に外食を行う設問に限定し、そこで知り合いができるかどうかを尋ねることになった。

9月のNSC議長提案	JGSS プリテスト調査票 (A票・B票)
[設問文]During the past three months, how often did you invite others to dinners? [選択肢]Never / Few / Sometime / Quite often / Very often	[設問文]あなたは、家族や親類以外の人といっしょに、外食したり飲みに行くことがどのくらいありますか。 [選択肢] 非常に頻繁に / 頻繁に / 時々 / ほとんどない / まったくない
[設問文]During the past three months, how often were you a dinner guest? (選択肢は同上)	
[設問文]Among these dinners, how often did you meet new friends at the dinners? (選択肢は同上)	[設問文]その時に、新しい知り合いができることは、どのくらいありますか。(選択肢は同上)
[設問文]Among these dinners, how often did you eat with relatives? (選択肢は同上)	

プリテストの結果、親族以外の人との外食機会は「時々」(62.8%)がもっとも多く、分布に際立った偏りは認められなかった。一方、外食時に新しい知り合いができる頻度については、「非常に頻繁に」(0%)と「頻繁に」(1.5%)が少なかった。したがって、外食時に新たな知り合いができる頻度については、他のチームのプリテストの結果と突き合わせながら、回答カテゴリーを減らす可能性がある。

4.2.8 社会的サポートのネットワーク

社会的サポートのネットワークについては、ソウル会議の後に台湾チームから、困った時に誰に助けを求めるかに関する設問が提案され、中国チームはその設問を組み込むことに賛同した。大阪会議において議論した結果、項目を絞り込み、EASS 2010 健康モジュールで用いた選択肢を使用することが決定した。日本チームでは、A票では「一番最近の出来事」として期間を定めず、B票では「過去5年間の出来事」として期間を定める質問文を設定した。

ソウル会議後の台湾の提案	JGSS プリテスト調査票 (A票)	JGSS プリテスト調査票 (B票)
[リード文]In the past year, did your family / friends / acquaintances discuss or help you in the following issues? If there are several people who helped you with each of the following issues, please tell me the one that occurs to you first. What's the relationship with this person? [項目] 1) Something you worried 2) Borrow you money 3) Help you to get a job 4) Help you in children-caring 5) Help you in emergency or disaster 6) Discuss political issues 7) Ask you to vote [選択肢] Family / Friends / Acquaintances / No	[リード文]以下のA~Eの事柄に関して、一番最近の出来事についてお答えください。 [項目] A 悩みや心理的な問題 B 健康上の問題 C 家事や育児、介護の問題 D 金銭的な問題 E 緊急時や災害時 [選択肢] 同居家族 / その他の親族 / 職場の人 / 近所の人 / 友人 / 専門職の人 / 誰にも助けを求めなかった / そのような問題は経験したことがない	[リード文]以下のA~Eの事柄に関して、過去5年間の出来事についてお答えください。 [項目]と[選択肢]はA票と同様

プリテストの結果、A票とB票のどちらにおいても、AからEまでの全ての問題について「同居家族」と回答した割合がもっとも高いことが明らかになった。また、全ての項目について、過去5年間

の出来事で尋ねた B 票よりも、一番最近の出来事で尋ねた A 票の方が、「そのような問題は経験したことがない」の回答が少なかった。したがって、期間を定めることで回答者の回答想起時期を明確に把握することが可能である B 票が良いのか、非該当の割合が少なくなる A 票の方が良いのか、他のチームのプリテストの結果と突き合わせながら検討する必要がある。

4.2.9 日常行動における社会的寛容性

日本チームはソウル会議において、「日常行動における社会的寛容性」を測定することを提案した。具体的には「意見が違っていても」、「同世代」や「socially superior」や「socially inferior」な人々と話ができるかどうかを尋ねる設問である。他のチームからも賛同が得られた。日本チームは、大阪会議の際に、「目上」「目下」という訳を「立場や地位が高い」「低い」に変更した。回答者が想定する人を「知り合いの人」とするか、「親しい人」とするかによって、回答が変わってくる可能性があると思われるので、日本チームは、この点をプリテストにおいて確認することにした。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票)	JGSS プリテスト調査票 (B 票)
<p>[リード文]あなたは、社会の問題や出来事について意見が違っていても、以下の人たちと話ができますか。</p> <p>[項目]</p> <p>1 同世代の親しい人 2 目上の親しい人 3 目下の親しい人</p>	<p>[リード文]あなたは、社会問題や出来事について意見が違っていても、以下の人たちと話ができますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A あなたと立場や地位がほぼ同じ知り合いの人 B あなたより立場や地位が高い知り合いの人 C あなたより立場や地位が低い知り合いの人</p>	<p>[リード文]あなたは、社会問題や出来事について意見が違っていても、以下の親しい人たち（家族を除く）と話ができますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A あなたと立場や地位がほぼ同じ親しい人 B あなたより立場や地位が高い親しい人 C あなたより立場や地位が低い親しい人</p>
<p>[選択肢]</p> <p>できる / ある程度できる / あまりできない / できない</p>	<p>[選択肢]よくできる / ある程度できる / あまりできない / まったくできない</p>	<p>[選択肢]A 票と同様</p>

プリテストの結果、A 票と B 票の分布はほとんど同様であり、ワーディングによる結果の差異は認められない。一方で、相手の立場や地位が自身より低い、もしくは、高い場合について、A 票と B 票ともに無回答が多かった（8.0%～10.1%）。これは、相手と自身の階層が異なる場合の議論における心理的葛藤から生じている可能性もあるが、実際にこのような状況を経験したことがないために答えられなかったのかもしれない。回答者の心理的負担を軽減するようにワーディングを変更する、または、「このような経験はないのでわからない」などの選択肢を加えることについて検討する必要がある。

4.2.10 地域の集会や会合への参加

ソウル会議で、日本チームは地域参加を測定するために、消費者問題、環境問題、教育の問題を取り上げて、これらについて話し合う集会や会合への参加の有無を尋ねる設問を提案した。ソウル会議の後、さらに「地域の安全（防災・防犯）の問題」の項目を追加提案した。大阪会議では、それぞれの問題の具体的例示を加え、選択肢も修正した。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票・B 票)
<p>[リード文]過去1年間に、あなたは次のような問題について議論したり解決策を考えるために、フォーマルまたはインフォーマルな会合に参加するなど、集団で話し合いをしたことがありますか。</p> <p>[項目]</p> <p>1 消費者問題 2 環境問題 3 教育の問題</p> <p>[選択肢]何度かある / 1 ~ 2 回ある / 一度もない</p>	<p>[リード文]過去1年間に、あなたは、地域における次のような問題について話し合う集会や会合に参加したことがありますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 環境問題 (大気汚染、水質汚染、騒音被害、ごみの問題など) B 教育問題 (いじめ、非行、学力低下など) C 安全・安心に関する問題 (防災、防犯など) D 消費者問題 (食の安全、商品の品質、詐欺など)</p> <p>[選択肢]まったくない / 1 ~ 2 回 / 数回 / 月に1回以上</p>

プリテストの結果、ほとんどの回答者が「まったくない」を選択していることが明らかになった (75.0% ~ 84.2%)。したがって日本では、選択肢は4つではなく、「ある」「ない」の二値カテゴリーで十分であるが、他のチームのプリテストの結果と突き合わせて協議する必要がある。

4.2.11 ボランティア活動への参加、政治活動への参加

ソウル会議で、日本チームは、「ボランティア活動」への参加をとらえる設問として、JGSS-2010 で作成した設問を NSC モジュールに組み込むことを提案した。日本だけではなく、韓国、中国、台湾でも通用する設問であり、他のチームの賛同を得られた。NSC 議長が9月に提示した案では、寄付行為の項目も加えられたが、大阪会議において、7項目を3項目に絞った。同時に、韓国チームが組み込むことを強く希望していた、政治活動の項目をこの設問に組み込むことが決まった。

ソウル会議での日本の提案	9月のNSC議長提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票・B 票)
<p>[リード文]あなたは過去1年間に、以下のようなボランティア活動を行なったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。</p> <p>[項目]</p> <p>1 まちづくりのための活動 (道路や公園等の清掃、道路に花を植える活動、まちおこしなど) 2 自然や環境を守るための活動 (森林や緑を守る活動、リサイクル活動、ゴミを減らす活動など) 3 安全な生活のための活動 (防犯パトロール、防災活動、交通安全活動など) 4 スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動 (スポーツの指導、伝統文化の普及活動、知識や技術の提供など) 5 高齢者を対象とした活動 (高齢者の日常生活の手助け、高齢者とのレクリエーションなど) 6 子どもを対象とした活動 (子ども会の世話、子育て支援、いじめ電話相談など) 7 その他のボランティア活動 (具体的に) 8 いずれも行っていない</p>	<p>[リード文]と[項目]の1~6までは同じ。[項目]の7と8を削除し、新たに下記の項目を加えた。</p> <p>7 NPO などへの寄付 (献血、臓器提供、資産・財産の寄付、服や食べ物提供など)</p>	<p>[リード文]過去1年間に、あなたは、以下のような活動を行なったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。</p> <p>[項目]</p> <p>1 まちづくりのためのボランティア活動 (自然や環境を守るための活動、安全な生活のための活動、まちおこしなど) 2 スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動 (スポーツの指導、伝統文化の普及活動、知識や技術の提供など) 3 社会的な支援を必要とする人々を対象としたボランティア活動 (子ども、高齢者、障がい者、日本に滞在する外国人などを対象とした活動) 4 政治や政策に関連する活動 (署名をしたり、デモや抗議集会に参加するなど; 仕事としての活動は除く)</p>

プリテストの結果、過去1年間にボランティア活動または政治活動に参加した割合は、それほど高くなかった(7.1%~14.8%)。この設問では、「いずれの活動も経験したことがない」という項目を設けていなかったために、無回答と非参加者を識別することが困難であった。過去1年間という期間の設定が妥当であるかどうかを検討し、また、無回答者と非活動者を明確に区別する工夫が必要である。

4.2.12 自然災害に対する地域の対応力

ソウル会議で、日本チームは、日常における地域参加だけでなく、自然災害などの非常事態における地域の対応力に関する設問を提案した。その際、コントロール変数として、「居住地域の安全性」を尋ねることも提案した。ソウル会議では採択されなかったが、大阪会議では1問目のみが採択された。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票・B 票)
[設問文]あなたの地域で自然災害が起こった場合、地域のみんでうまく対処できると思いますか。 [選択肢]強く賛成 / 賛成 / どちらかといえば賛成 / どちらともいえない / どちらかといえば反対 / 反対 / 強く反対	[設問文]あなたの地域で自然災害が起こった場合、あなたの地域の人々は、うまく対処できると思いますか。 [選択肢]
[設問文]あなたの地域の人、近隣地域で自然災害が起こった場合、復興のボランティアに参加すると思いますか。(選択肢は同上)	強くそう思う / そう思う / どちらかといえばそう思う / どちらともいえない / どちらかといえばそう思わない / そう思わない / 強くそう思わない
[設問文]あなたは、あなたの住んでいる地域が災害に対し安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。 [選択肢]	
安全 / ある程度安全 / 安全とも危険ともいえない / ある程度危険 / 危険	

プリテストの結果、「どちらともいえない」(41.8%)を中心としたなだらかな分布が示されたものの、「強くそう思う」(2.0%)と「強くそう思わない」(4.1%)の回答率は低かった。日本の結果だけをみると、この二つの選択肢を除いた5件法が適切に見えるが、他の3チームのプリテストの結果と突き合わせる必要がある。

4.2.13 政治意識

ソウル会議で、日本チームは、政治意識についての設問を提案し、いずれも採用された。「政治に対する関心」の設問は、韓国チームが大阪会議で提案し、これも採用された。これらの設問に対する選択肢は、「strongly agree」から「strongly disagree」までの7件法であるが、「強く賛成 / 反対」と訳すよりも、「強くそう思う / 強くそう思わない」と訳す方がよいのではないかという意見が、日本チーム内に出てきた。そこでプリテストでは、A票では賛成—反対を用い、B票では思う—思わないという表現を用いて、検討することにした。「政治への関心の有無」の設問は、B票では独立した設問とし、「関心がある」から「ない」までの4件法で尋ねている。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票)	JGSS プリテスト調査票 (B 票)
<p>[リード文]社会や政府と市民との関係について、あなたは次のような意見をどう思いますか。</p> <p>[項目]</p> <p>1 社会で問題になっていることの解決に役立ちたい</p> <p>2 自分のようなふつ々の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない</p> <p>3 政治や政府は複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できない</p> <p>[選択肢]</p> <p>強く賛成 / 賛成 / どちらかといえば賛成 / どちらともいえない / どちらかといえば反対 / 反対 / 強く反対</p>	<p>[リード文]あなたは以下の意見について、どう思いますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 自分のようなふつ々の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない</p> <p>B 政治や政府は複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できない</p> <p>C 私は、政治に対して関心がある</p> <p>D 私は、社会のために役に立ちたい</p> <p>[選択肢]</p> <p>強く賛成 / 賛成 / どちらかといえば賛成 / どちらともいえない / どちらかといえば反対 / 反対 / 強く反対</p>	<p>[リード文]あなたは以下の意見について、どう思いますか。</p> <p>[項目]</p> <p>A 自分のようなふつ々の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない</p> <p>B 政治や政府は複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できない。</p> <p>C 私は、社会のために役に立ちたい</p> <p>[選択肢]</p> <p>強くそう思う / そう思う / どちらかといえばそう思う / どちらともいえない / どちらかといえばそう思わない / そう思わない / 強くそう思わない</p> <p>[設問文]あなたは政治に対して関心がありますか。</p> <p>[選択肢]関心がある / どちらかといえば関心がある / どちらかといえば関心はない / 関心はない</p>

プリテストの結果、B 票に比べて、A 票では「どちらともいえない」(32.2% ~ 43.7%) に集中する傾向が認められた。「政治に対する関心」についても、A 票では「どちらともいえない」(33.3%) が多く、「反対」(2.3%) と「強く反対」(3.4%) が少ないのに対して、B 票では「関心はない」(2.8%) のみが少なく、その他の3つの選択肢に回答が集中する傾向が認められた(22.0% ~ 40.4%)。A 票の回答者からは、これらの設問について「賛成・反対」で回答することは難しいというコメントが3件、調査票末尾の自由記述欄に寄せられたことを考え合わせると、B 票で用いた「そう思う / そう思わない」の選択肢の方がより適切であるかもしれない。

4.2.14 近隣との関わり

ソウル会議で、日本チームは、近隣との関わりについて、EASS 2010 健康モジュールに組み込んだ2つの設問を提案したが、採用されなかった。日本チームは、大阪会議において再度提案し、プリテストの段階では2設問を組み込むことが了承された。ただし、近隣との関わりについては、台湾チームから異なる聞き方をした方が良いのではないかという提案があり、日本チームが案を練ることになった。内閣府「国民生活選好度調査」(2007年)から2項目を提案し、プリテストに組み込むことが了承された。日本チームは、近所づきあいのもっとも濃密な3番目の項目をB票のみに組み込んで、その分布を見ることにした。さらに、選択肢については政治意識と同様に、A票では「賛成/反対」を用い、B票では「そう思う/そう思わない」という表現を用いて、検討することにした。

ソウル会議での日本の提案	JGSS プリテスト調査票 (A 票)	JGSS プリテスト調査票 (B 票)
<p>[設問文] A 近所の人は、お互いに気にかけている B 近所の人は、私が困っていたら手助けしてくれる</p> <p>[選択肢] 強く賛成 / 賛成 / どちらかといえば賛成 / どちらともいえない / どちらかといえば反対 / 反対 / 強く反対</p>	<p>[リード文]あなたは以下の意見について、どう思いますか。 [項目] E 近所の人はお互いに気にかけている F 近所の人は、私が困っていたら手助けしてくれる</p> <p>[選択肢] 強く賛成 / 賛成 / どちらかといえば賛成 / どちらともいえない / どちらかといえば反対 / 反対 / 強く反対</p>	<p>[リード文]あなたのご近所づきあいについておうかがいします。 [項目] A 近所の人はお互いに気にかけている B 近所の人は、私が困っていたら手助けしてくれる</p> <p>[選択肢]よくあてはまる / あてはまる / どちらかといえばあてはまる / どちらともいえない / どちらかといえばあてはまらない / あてはまらない / まったくあてはまらない</p>
	<p>[リード文]あなたのご近所づきあいについておうかがいします。 [項目] A ふだんの生活の中で、あいさつ程度の最小限のつきあいをしている近所の人は、何人いますか。 B 日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている近所の人は、何人いますか。 [選択肢]0 人 / 1-4 人 / 5-9 人 / 10-14 人 / 15-24 人 / 25 人以上</p>	<p>[リード文]と[項目]A、B、[選択肢]は A 票と同様であり、B 票のみ追加の 1 項目がある。 [B 票のみの追加項目] 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている近所の人は、何人いますか。 [選択肢]A 票と同様</p>

プリテストの結果、全体的な分布の傾向は A 票と B 票で似ているものの、「どちらともいえない」の選択率は A 票 (37.9% ~ 44.8%) が B 票 (22.0% ~ 31.2%) に比べて多く、「そう思う / そう思わない」で尋ねられた B 票の方が中庸の回答が少ないことが示唆された。B 票にのみ組み込んだ設問については、約半数の人が「生活面で協力しあっている近所の人」がいると回答した。また、この項目を組み込んだことによる影響は認められなかった。したがって、次回の全体会議において、この項目を加えることを提案したい。

4.2.15 他者への信頼感

ソウル会議では、日本チームは、他者への信頼感に関して 3 つの設問を提案した。1 問目はアメリカの GSS および JGSS で繰り返し尋ねている「人間の本性の善悪」を問う設問、2 問目は EASS 2010 Health Module に組み込み、ISSP でも用いられている「一般的信頼感」の設問、3 問目は日本チームが新たに作成した設問である。NSC 議長が 9 月に提示した案では、「人間の本性」の設問のみが採用された。台湾チームは、大阪会議において、信頼の規範に関する設問を提案して採択されたが、この設問の翻訳は難しく、プリテストでは「意図がわかるまでは、その人を信頼してはならない」と訳した。

ソウル会議での日本の提案	大阪会議	JGSS プリテスト調査票 (A票・B票)
<p>[設問文]人間の本性について、あなたはどのようにお考えですか。番号(1~7)を1つ選んでください。</p> <p>[選択肢] 1 人間の本性は本来「悪」である / 2/3/4/5/6/7 人間の本性は本来「善」である</p>	<p>[設問文]人間の本性について、あなたはどのようにお考えですか。番号(1~7)を1つ選んでください。</p> <p>[選択肢] 1 人間の本性は本来「悪」である / 2/3/4/5/6/7 人間の本性は本来「善」である</p>	<p>[設問文]人間の本性について、あなたはどのようにお考えですか。番号(1~7)を1つ選んでください。</p> <p>[選択肢] 1 人間の本性は本来「悪」である / 2/3/4/5/6/7 人間の本性は本来「善」である</p>
<p>[設問文]一般的に、人は信用できると思いますか。それとも、人と付き合うときには、できるだけ用心したほうがよいと思いますか。</p> <p>[選択肢] ほとんどの場合、信用できる / たいしては信用できる / たいしては、用心したほうがよい / ほとんどの場合、用心したほうがよい</p>	<p>[設問文] Some may say: "Before we trust somebody we have to be sure of his / her intentions." To what extent do you agree with this statement?</p> <p>[選択肢] Strongly agree / Agree / Somewhat agree / Neither agree nor disagree / Somewhat disagree / Disagree / Strongly disagree</p>	<p>[設問文]「意図がわかるまでは、その人を信頼してはならない」という意見について、あなたはどのように思いますか。</p> <p>[選択肢] 強く賛成 / 賛成 / どちらかといえば賛成 / どちらともいえない / どちらかといえば反対 / 反対 / 強く反対</p>
<p>[設問文]他人の目の届かないところでは、人は社会的に望ましくない行動をしかねない</p> <p>[選択肢]強く賛成 / 賛成 / どちらかといえば賛成 / どちらともいえない / どちらかといえば反対 / 反対 / 強く反対</p>		

プリテストの結果、人間の本性の設問では、中庸の「4」の回答がもっとも多く(31.6%)、「善」と考える傾向(「5」~「7」を選択: 53.6%)が、「悪」と考える傾向(「1」~「3」を選択: 12.8%)を上回った。一方、信頼規範の設問については、「どちらかといえば賛成」(32.1%)を中心とした賛成よりの分布が認められた。したがって、両設問は異なる概念を測定していることが示唆された。

4.2.16 人、機関・組織に対する信頼

ソウル会議では、機関・組織に対する信頼感の設問を組み込むことについて4チームが同意したが、具体的な設問については大阪会議において議論することになった。9月のNSC議長提案では、機関・組織だけでなく、家族、友人、近所の人、初対面の人なども項目に加わっていた。大阪会議では、項目から家族を削除して親類と職場の人を加えることにした。機関・組織については、機関そのものについて尋ねるのか、各機関で働いている人々について尋ねるのかに関して意見が分かれた。そこで、プリテストでは、機関・組織に対する信頼の設問とそこで働く人々に対する信頼の設問を両方組み込み、その結果を検討して、本調査ではどちらかを採用することになった。また、選択肢についても議論があり、A票では「ほとんど信頼していない」から「とても信頼している」までの4件法、B票では「まったく信頼していない」から「とても信頼している」までの3件法で尋ね、結果を比較することになった。

JGSS プリテスト調査票 (A票・B票)		備考
機関・組織	人(機関・組織で働く人々を含む)	
<p>[リード文]次あげる機関・組織について、あなたはどれくらい信頼していますか。</p> <p>[項目] 医療機関 / 金融機関 / 大企業 / 報道機関 / 非政府組織や非営利団体 / 学校 / 地方自治体 / 政府 / 警察 / 自衛隊 / 裁判所</p>	<p>[リード文]次あげる人について、あなたはどれくらい信頼していますか。</p> <p>[項目]親類 / 友人 / 近所の人 / 職場の人 / 初対面の人 / 医者 / 銀行員 / 企業経営者・役員 / 報道関係者 / 非政府組織や非営利団体のリーダー / 教員 / 地方公務員 / 国家公務員 / 警察官 / 自衛隊員 / 裁判官</p>	<p>左記の設問について、A票とB票で異なる選択肢を用いた。 [A票選択肢]とても信頼している / ある程度信頼している / あまり信頼していない / まったく信頼していない [B票選択肢]とても信頼している / 少しは信頼している / ほとんど信頼していない</p>

プリテストの結果、親類と友人については、A票とB票で顕著な特徴は認められなかったが、機関・組織で働く人々に関しては、4件法で尋ねると5つの項目（銀行員、企業経営者役員、報道関係者、非政府組織や非営利団体のリーダー、地方公務員）において「とても信頼している」が0%であった。したがって、機関・組織ではなく、そこで働く人々について尋ねるのであれば、B票で設定した3件法がより適切であると思われる。

一方で、機関・組織に対する信頼感とそこで働く人々に対する信頼感の分布を比べると、両者はおおむね類似しているが、「企業経営者・役員」の信頼感よりも「大企業」の信頼感の方が高く、「政府」の信頼感よりも「国家公務員」の信頼感の方が高かった。すなわち、一概に機関・組織について尋ねるか、そこで働く人々について尋ねるかを分布から判断することはできない。次回の全体会議では、4チームが測定したいと考える内容の概念的整理を行い、項目を決定する必要がある。

4.2.17 人生に対する効力感

ソウル会議後に台湾チームが人生に対する効力感の設問を提案した。大阪会議において、4チームが採択することで同意したが、設問文を若干修正し、選択肢を5件法から4件法に変更した。

ソウル会議後の台湾の提案	NSC モジュールプリテスト原文	JGSS プリテスト調査票 (A票・B票)
<p>[設問文]Do you feel that you have the power to make important decisions that change the course of your life? Rate yourself on a 1 to 5 scale, where 1 means being totally unable to change your life, and five means having full control over your life.</p> <p>[選択肢] Totally unable to change life / Mostly unable to change life / Neither able nor unable / Mostly able to change life / Totally able to change life</p>	<p>[設問文]Do you feel that you have the power to make important decisions to change the course of your life? Rate yourself on a scale 1 to 4, where 1 means being mostly unable to change life, and 4 means having great control over your life.</p> <p>[選択肢] Mostly unable to change life / Somewhat unable to change life / Somewhat able to change life / Mostly able to change life</p>	<p>[設問文]あなたは、自分の人生を変えるような重大な決断をすることができますと感じていますか。</p> <p>[選択肢] 人生を変えることは、ほとんどできないと感じている / どちらかといえば、人生を変えることはできないと感じている / どちらかといえば、人生を変えることはできると感じている / 人生を変えることは十分にできると感じている</p>

プリテストの結果、4件法の分布に問題はなかった。

5. おわりに

本稿では、EASS 2012 NSC モジュールの作成過程を記述してきた。2009年11月に、EASS 2012のテーマが「社会的ネットワーク」に決定されて以来、日本、韓国、中国、台湾の4チームが、チーム内での協議、電子メールでの多くのやり取り、および、2回の全体会議で協議を重ね、調査票の作成に向けた調整を行ってきた。

EASSに参加している4つのチームでは、研究背景や社会的ネットワークについての問題・関心事が異なるため、EASS 2012 NSC モジュールの作成過程では、合意に至るまでに多くの時間と議論を要する設問もあった。

本稿で報告した日本でのプリテストに続き、2011年4月までの間に韓国、中国、および、台湾においてプリテストが実施される予定である。2011年5月には、大阪において、4チームがプリテストの結果を持ち寄り、調査票の確定に向けた更なる検討を行う予定である。

[注]

- (1) EASS プロジェクトが開始された経緯や、調査票作成のルールと手順については、EASS 2008 モジュール作成を報告した榎木 (2008)、EASS 2010 モジュール作成を報告した埴淵 (2009) と三輪・岩井 (2010) および EASS のウェブサイト (<http://www.eass.info/>) に詳しく述べられている。
- (2) 回収したサンプルには、性別 (男性 81 名、女性 115 名) や年齢 (下表) の著しい偏りは認められなかった。

年齢	人口		回収標本		
	N	比率	有効回答数	期待値	残差
20-29 歳	56,012	0.14	16	26.5	-2.04
30-39 歳	75,930	0.19	28	36.0	-1.33
40-49 歳	69,690	0.17	38	33.0	0.87
50-59 歳	58,338	0.14	30	27.6	0.45
60-69 歳	78,898	0.19	52	37.4	2.40
70-79 歳	51,313	0.13	20	24.3	-0.87
80-89 歳	19,526	0.05	10	9.2	0.25
計	409,707	1.00	194	194.0	0.00

無回答

2

合計

196

100.0

$$\text{残差} = (\text{有効回収数} - \text{期待値}) \div \text{期待値}$$

[参考文献]

East Asian Social Survey URL:

<http://www.eass.info/about/about01.php> (2011.3.3)

榎木美樹, 2008, 「EASS 2008 Culture Module の作成 JGSS によるプリテストの結果を中心に」『日本語版 General Social Surveys 研究論文集』7: 195-232.


埴淵知哉, 2009, 「EASS 2010 Health Module の作成 JGSS によるプリテストの結果を中心に」『日本語版 General Social Surveys 研究論文集』9: 211-242.

三輪加奈・岩井紀子, 2010, 「East Asian Social Survey 2010 Health Module の作成 (2) 日韓中台のプリテストに基づく調整」『日本語版 General Social Surveys 研究論文集』10: 297-322.

【資料A】EASS 2012 第1回プリテスト調査票

A 票

2011年1月
郵送調査票 (A)



文部科学大臣認定
日本版総合的社会調査共同研究拠点
大阪商業大学 JGSS 研究センター

社会的ネットワークに関する 国際比較調査

調査企画・実施：大阪商業大学 JGSS 研究センター

＜調査の趣旨と記入方法＞

・この調査は、社会関係のネットワークに関する学術目的の調査です。あなた様がどのような考え方をもちなのか、簡単な質問でおたずねします。

・調査の結果は、統計的に処理されますので、プライバシー等の面でご迷惑をおかけすることは決してございません。どうか調査にご協力下さいますようお願い申し上げます。

・お答えは、あてはまる回答の番号（1 2 3……）を○印で囲んでください。番号を1つだけ選んでいただく場合と、あてはまるものをすべて選んでいただく場合があります。

（記入例）Q6 あなたの性別を教えてください。

① 男性 2 女性

・ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れてポストに投函してください。できるだけ早い時期にご返送いただければ幸いです。

ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

最初に、あなたの社会関係についておうかがいします。

Q1 あなたは、次にあげる会や組織に入っていますか。入っている場合は、どの程度積極的に参加していますか。

	積極的に参加している	入っているが、積極的に参加していない	入っていない
A 政治関係の団体や会	1	2	3
B 地縁組織（自治会・町内会）	1	2	3
C ボランティア・NPO	1	2	3
D 市民運動・消費者運動のグループ	1	2	3
E 宗教の団体や会	1	2	3
F 同窓会	1	2	3
G 趣味の会やスポーツクラブ	1	2	3
H 労働組合	1	2	3
I 専門協会の学術団体	1	2	3
J 業界団体・同業者団体	1	2	3

Q2 過去1年間に、あなたがもっとも多く参加した会や組織はどれですか。1つだけ○をつけてください。

1 政治関係の団体や会 2 地縁組織（自治会・町内会） 3 ボランティア・NPO 4 市民運動・消費者運動のグループ 5 宗教の団体や会 6 同窓会 7 趣味の会やスポーツクラブ 8 労働組合 9 専門協会・学術団体 10 業界団体・同業者団体	11 いずれの会や組織にも入っていない <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">2 ページ 05 へ</div>
---	---


Q3 過去1年間に、あなたがもっとも多く参加した会や組織のなかの人間関係は、以下の記述のうちどれにもっとも近いですか。1つだけ○をつけてください。

1 上下関係が非常に明確である 2 役割としての上下関係はあるが、ときどき役割を交代する 3 上下関係は明確ではなく、だいたい平等である 4 完全に平等な関係にある

1

B 票

2011年1月
郵送調査票 (B)



文部科学大臣認定
日本版総合的社会調査共同研究拠点
大阪商業大学 JGSS 研究センター

社会的ネットワークに関する 国際比較調査

調査企画・実施：大阪商業大学 JGSS 研究センター

＜調査の趣旨と記入方法＞

・この調査は、社会関係のネットワークに関する学術目的の調査です。あなた様がどのような考え方をもちなのか、簡単な質問でおたずねします。

・調査の結果は、統計的に処理されますので、プライバシー等の面でご迷惑をおかけすることは決してございません。どうか調査にご協力下さいますようお願い申し上げます。

・お答えは、あてはまる回答の番号（1 2 3……）を○印で囲んでください。番号を1つだけ選んでいただく場合と、あてはまるものをすべて選んでいただく場合があります。

（記入例）Q6 あなたの性別を教えてください。

① 男性 2 女性

・ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れてポストに投函してください。できるだけ早い時期にご返送いただければ幸いです。

ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

最初に、あなたの社会関係についておうかがいします。

Q1 あなたは、次にあげる会や組織に入っていますか。入っている場合は、どの程度積極的に参加していますか。

	積極的に参加している	入っているが、積極的に参加していない	入っていない
A 政治関係の団体や会	1	2	3
B 地縁組織（自治会・町内会）	1	2	3
C ボランティア・NPO	1	2	3
D 市民運動・消費者運動のグループ	1	2	3
E 宗教の団体や会	1	2	3
F 同窓会	1	2	3
G 趣味の会やスポーツクラブ	1	2	3
H 労働組合	1	2	3
I 業界団体・同業者団体・専門協会の学術団体	1	2	3

Q2 過去1年間に、あなたがもっとも積極的に参加した会や組織はどれですか。1つだけ○をつけてください。

1 政治関係の団体や会 2 地縁組織（自治会・町内会） 3 ボランティア・NPO 4 市民運動・消費者運動のグループ 5 宗教の団体や会 6 同窓会 7 趣味の会やスポーツクラブ 8 労働組合 9 業界団体・同業者団体・専門協会の学術団体	10 いずれの会や組織にも入っていない <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">2 ページ 05 へ</div>
---	---

Q3 過去1年間に、あなたがもっとも積極的に参加した会や組織のなかの人間関係は、以下の記述のうちどれにもっとも近いですか。1つだけ○をつけてください。

1 上下関係が非常に明確である 2 役割としての上下関係はあるが、ときどき役割を交代する 3 上下関係は明確ではなく、だいたい平等である 4 完全に平等な関係にある

1

A票

Q4 過去1年間に、あなたがもっとも多く参加した会や組織の人たちの考え方や行動は、お互いに異なりますか。以下の記述のうちもっとも近いものを選んでください。

- ほとんど全員が同じ考え方や行動をしている
- 同じ考え方や行動をしている人が多い
- 同じ考え方や行動をしている人は少ない
- ほとんど全員が異なる考え方や行動をしている

Q5 あなたがふだん1日に接する家族や親類は、同居している人を除いて何人くらいですか（電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます）。

1 0人	4 10~19人	7 100人以上
2 1~4人	5 20~49人	
3 5~9人	6 50~99人	

Q6 家族や親類以外で、あなたがふだん1日に接する人は、何人くらいですか（電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます）。

1 0人	4 10~19人	7 100人以上
2 1~4人	5 20~49人	
3 5~9人	6 50~99人	

Q7 家族や親類以外で、あなたがふだん1日に接する人たちは、以下の記述のうち、どれにもっとも近いですか。1つだけ○をつけてください。

- あなたより立場や地位の高い人が多い
- あなたより立場や地位の低い人が多い
- あなたと立場や地位がほぼ同じ人が多い
- さまざまな立場や地位の人がいる
- 家族や親類以外で、ふだん1日に接する人はいない

2

Q8 あなたが、よく会話をする親類、友人、知り合いのなかで、以下のような職業をもつ人はいますか。

A 議員・上級公務員・自治体幹部	1 いる	2 いない
B 管理職	1 いる	2 いない
C 専門職	1 いる	2 いない
D 技術支援職・専門補佐職	1 いる	2 いない
E 事務的職業	1 いる	2 いない
F サービス的職業・販売的職業	1 いる	2 いない
G 農林漁業従事者	1 いる	2 いない
H 技能工・職人	1 いる	2 いない
I 簡単な機械や乗り物の操作をする職業	1 いる	2 いない
J 特に熟練を要しない軽易な職業	1 いる	2 いない

Q9 あなたには、以下のような親類、友人、知り合いはいますか。

A 他の都道府県に住んでいる親類、友人、知り合い	1 いる	2 いない
B 海外に住んでいる親類、友人、知り合い	1 いる	2 いない
C 外国人の知り合い	1 いる	2 いない

Q10-1 あなたが、現在の仕事につく前に、就職機会に関する情報を提供してくれた親類、友人、知り合いはいましたか。現在仕事についていない方は、最後についていた仕事についてお答えください。

	1 いた	2 いなかった	3 仕事についたことはない
--	------	---------	---------------

Q10-2 現在の仕事を獲得する際に、あなたに協力してくれた親類、友人、知り合いは何人いましたか（情報提供、口利き、節ましなど）。現在仕事についていない方は、最後についていた仕事についてお答えください。

1 0人	4 3人	7 6人以上
2 1人	5 4人	
3 2人	6 5人	

Q10-3 その人たちからの協力は、仕事を獲得するのに役立ちましたか。

1 役に立たなかった	2 少し役に立った	3 非常に役に立った
------------	-----------	------------

3

B票

Q4 過去1年間に、あなたがもっとも積極的に参加した会や組織の人たちの考え方は、お互いに異なりますか。以下の記述のうちもっとも近いものを選んでください。

- ほとんど全員が同じ考え方をしている
- 同じ考え方をしている人が多い
- 同じ考え方をしている人は少ない
- ほとんど全員が異なる考え方をしている

Q5 あなたがふだん1日に接する家族や親類は、同居している人を除いて何人くらいですか（電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます）。

1 0人	4 10~19人	7 100人以上
2 1~4人	5 20~49人	
3 5~9人	6 50~99人	

Q6 家族や親類以外で、あなたがふだん1日に接する人は、何人くらいですか（電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます）。

1 0人	4 10~19人	7 100人以上
2 1~4人	5 20~49人	
3 5~9人	6 50~99人	

Q7 家族や親類以外で、あなたがふだん1日に接する人たちは、以下の記述のうち、どれにもっとも近いですか。1つだけ○をつけてください。

- あなたより立場や地位の高い人が多い
- あなたより立場や地位の低い人が多い
- あなたと立場や地位がほぼ同じ人が多い
- さまざまな立場や地位の人がいる
- 家族や親類以外で、ふだん1日に接する人はいない

2

Q8 あなたが、よく会話をする親類、友人、知り合いのなかで、以下のような職業をもつ人はいますか。

A 大学教員	1 いる	2 いない
B 弁護士	1 いる	2 いない
C 看護師	1 いる	2 いない
D コンピューター・プログラマー	1 いる	2 いない
E 中学校の教員	1 いる	2 いない
F 人事部長	1 いる	2 いない
G 農家従事者	1 いる	2 いない
H 美容師・理容師	1 いる	2 いない
I 受付係	1 いる	2 いない
J 警察官	1 いる	2 いない

Q9 あなたには、以下のような親類、友人、知り合いはいますか。

A 他の都道府県に住んでいる親類、友人、知り合い	1 いる	2 いない
B 海外に住んでいる親類、友人、知り合い	1 いる	2 いない
C 外国人の知り合い	1 いる	2 いない

Q10-1 あなたが、現在の仕事につく前に、就職機会に関する情報を提供してくれた親類、友人、知り合いはいましたか。現在仕事についていない方は、最後についていた仕事についてお答えください。

	1 いた	2 いなかった	3 仕事についたことはない
--	------	---------	---------------

Q10-2 現在の仕事を獲得する際に、あなたに協力してくれた親類、友人、知り合いは何人いましたか（情報提供、口利き、節ましなど）。現在仕事についていない方は、最後についていた仕事についてお答えください。

1 0人	4 3人	7 6人以上
2 1人	5 4人	
3 2人	6 5人	

Q10-3 その人たちからの協力は、仕事を獲得するのに役立ちましたか。

1 役に立たなかった	2 少し役に立った	3 非常に役に立った
------------	-----------	------------

3

A票

Q11-1 あなたは、家族や親類以外の人と一っしょに、外食したり飲みに行くことがどのくらいありますか。

1	2	3	4	5
非常に頻繁に	頻繁に	時々	ほとんどない	まったくない

Q11-2 その時に、新しい知り合いができることは、どのくらいありますか。

1	2	3	4	5
非常に頻繁に	頻繁に	時々	ほとんどない	まったくない

Q12 以下のA-Eの事柄に関して、一番最近の出来事についてお答えください。

A あなたは、悩みや心理的な問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (カウンセラー、精神科医など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は経験したことがない

B あなたは、健康上の問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (医師、健康管理士など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は経験したことがない

C あなたは、家事や育児、介護の問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (保育士、ヘルパーなど)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は経験したことがない

D あなたは、金銭的な問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (金融機関や公的機関の人など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は経験したことがない

4

E あなたは、緊急時や災害時に、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (警察・消防など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は経験したことがない

あなたの社会参加についてお聞きします。

Q13 あなたは、社会問題や出来事について意見が違っても、以下の人たちと話ができますか。

	よくできる	ある程度できる	あまりできない	まったくできない
A あなたと立場や地位がほぼ同じ知り合いの人	1	2	3	4
B あなたより立場や地位が高い知り合いの人	1	2	3	4
C あなたより立場や地位が低い知り合いの人	1	2	3	4

Q14 過去1年間に、あなたは、地域における次のような問題について話し合う集いや会合に参加したことがありますか。

	まったくない	1~2回	数回	月に1回以上
A 環境問題 (大気汚染、水質汚染、騒音被害、ごみの処理など)	1	2	3	4
B 教育問題 (いじめ、非行、学力低下など)	1	2	3	4
C 安全・安心に関する問題 (防災、防犯など)	1	2	3	4
D 消費者問題 (食の安全、商品の品質、詐欺など)	1	2	3	4

Q15 過去1年間に、あなたは、以下のような活動を行なったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- まちづくりのためのボランティア活動 (自然や環境を守るための活動、安全な生活のための活動、まちおこしなど)
- スポーツ・文化・芸術・学術に関連したボランティア活動 (スポーツの指導、伝統文化の普及活動、知識や技術の提供など)
- 社会的な支援を必要とする人々を対象としたボランティア活動 (子ども、高齢者、障がい者、日本に滞在する外国人などを対象とした活動)
- 政治や政策に関連する活動 (署名をしたり、デモや抗議集会に参加するなど; 仕事としての活動は除く)

5

B票

Q11-1 あなたは、家族や親類以外の人と一っしょに、外食したり飲みに行くことがどのくらいありますか。

1	2	3	4	5
非常に頻繁に	頻繁に	時々	ほとんどない	まったくない

Q11-2 その時に、新しい知り合いができることは、どのくらいありますか。

1	2	3	4	5
非常に頻繁に	頻繁に	時々	ほとんどない	まったくない

Q12 以下のA-Eの事柄に関して、過去5年間での出来事についてお答えください。

A あなたは、悩みや心理的な問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (カウンセラー、精神科医など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は、過去5年間に経験していない

B あなたは、健康上の問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (医師、健康管理士など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は、過去5年間に経験していない

C あなたは、家事や育児、介護の問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (保育士、ヘルパーなど)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は、過去5年間に経験していない

D あなたは、金銭的な問題が生じたときに、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (金融機関や公的機関の人など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は、過去5年間に経験していない

4

E あなたは、緊急時や災害時に、最初に誰に助けを求めましたか。1つだけ○をつけてください。

1 同居家族	5 友人
2 その他の親族	6 専門職の人 (警察・消防など)
3 職場の人	7 誰にも助けを求めなかった
4 近所の人	8 そのような問題は、過去5年間に経験していない

あなたの社会参加についてお聞きします。

Q13 あなたは、社会問題や出来事について意見が違っても、以下の親しい人たち (家族を除く) と話ができますか。

	よくできる	ある程度できる	あまりできない	まったくできない
A あなたと立場や地位がほぼ同じ親しい人	1	2	3	4
B あなたより立場や地位が高い親しい人	1	2	3	4
C あなたより立場や地位が低い親しい人	1	2	3	4

Q14 過去1年間に、あなたは、地域における次のような問題について話し合う集いや会合に参加したことがありますか。

	まったくない	1~2回	数回	月に1回以上
A 環境問題 (大気汚染、水質汚染、騒音被害、ごみの処理など)	1	2	3	4
B 教育問題 (いじめ、非行、学力低下など)	1	2	3	4
C 安全・安心に関する問題 (防災、防犯など)	1	2	3	4
D 消費者問題 (食の安全、商品の品質、詐欺など)	1	2	3	4

Q15 過去1年間に、あなたは、以下のような活動を行なったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- まちづくりのためのボランティア活動 (自然や環境を守るための活動、安全な生活のための活動、まちおこしなど)
- スポーツ・文化・芸術・学術に関連したボランティア活動 (スポーツの指導、伝統文化の普及活動、知識や技術の提供など)
- 社会的な支援を必要とする人々を対象としたボランティア活動 (子ども、高齢者、障がい者、日本に滞在する外国人などを対象とした活動)
- 政治や政策に関連する活動 (署名をしたり、デモや抗議集会に参加するなど; 仕事としての活動は除く)

5

A票

Q16 あなたの地域で自然災害が起こった場合、あなたの地域の人々は、うまく対処できると思いますか。

1	2	3	4	5	6	7
強く そう思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	強く そう思わない

Q17 最近の主要な選挙のときに、あなたは特定の候補者への投票や、選挙運動への参加を頼まれましたか。あなたに頼んだ人すべてに○をつけてください。

- 1 家族・親類
- 2 職場の人
- 3 近所の人
- 4 友人
- 5 信仰しているお寺や神社や教会の人
- 6 所属している趣味やスポーツの会やボランティア・グループの人
- 7 選挙運動員
- 8 その他の人 (具体的に_____)
- 9 誰からも頼まれなかった

Q18 あなたは以下の意見について、どう思いますか。

A 自分のようなふつ々の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない。

1	2	3	4	5	6	7
強く賛成 そう思う	賛成 そう思う	どちらか といえば賛成	どちらとも いえない	どちらか といえば反対	反対	強く反対 そう思わない

B 政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない。

1	2	3	4	5	6	7
強く賛成 そう思う	賛成 そう思う	どちらか といえば賛成	どちらとも いえない	どちらか といえば反対	反対	強く反対 そう思わない

C 私は、政治に対して関心がある。

1	2	3	4	5	6	7
強く賛成 そう思う	賛成 そう思う	どちらか といえば賛成	どちらとも いえない	どちらか といえば反対	反対	強く反対 そう思わない

6

D 私は、社会のために役に立ちたい。

1	2	3	4	5	6	7
強く賛成	賛成	どちらか といえば賛成	どちらとも いえない	どちらか といえば反対	反対	強く反対

E 近所の人には、お互いに気にかけている。

1	2	3	4	5	6	7
強く賛成	賛成	どちらか といえば賛成	どちらとも いえない	どちらか といえば反対	反対	強く反対

F 近所の人には、私が困っていたら手助けしてくれる。

1	2	3	4	5	6	7
強く賛成	賛成	どちらか といえば賛成	どちらとも いえない	どちらか といえば反対	反対	強く反対

Q19 あなたのご近所づきあいについておろかがいします。

A ふだんの生活の中で、あいさつ程度の最小限のつきあいをしている近所の人には、何人いますか。

1	2	3	4	5	6
0人	1~4人	5~9人	10~14人	15~24人	25人以上

B 日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている近所の人には、何人いますか。

1	2	3	4	5	6
0人	1~4人	5~9人	10~14人	15~24人	25人以上

人や組織に対する信頼についておろかがいします。

Q20 一般的に、人は信用できると思いますか、それとも、人と付き合うときには、できるだけ用心したほうがよいと思いますか。 1つだけ○をつけてください。

- 1 ほとんどの場合、信用できる
- 2 たいていは、信用できる
- 3 たいていは、用心したほうがよい
- 4 ほとんどの場合、用心したほうがよい

7

B票

Q16 あなたの地域で自然災害が起こった場合、あなたの地域の人々は、うまく対処できると思いますか。

1	2	3	4	5	6	7
強く そう思う	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう 思わない	強く そう思わない

Q17 最近の主要な選挙のときに、あなたは特定の候補者への投票や、選挙運動への参加を頼まれましたか。あなたに頼んだ人すべてに○をつけてください。

- 1 家族・親類
- 2 職場の人
- 3 近所の人
- 4 友人
- 5 信仰しているお寺や神社や教会の人
- 6 所属している趣味やスポーツの会やボランティア・グループの人
- 7 選挙運動員
- 8 その他の人 (具体的に_____)
- 9 誰からも頼まれなかった

Q18 あなたは政治に対して関心がありますか。

1	2	3	4
関心がある	どちらか といえば 関心がある	どちらか といえば 関心はない	関心はない

Q19 あなたは以下の意見について、どう思いますか。

A 自分のようなふつ々の市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない。

1	2	3	4	5	6	7
強く そう思う	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう思わない	そう 思わない	強く そう思わない

B 政治や政府は複雑なので、自分は何をやっているのかよく理解できない。

1	2	3	4	5	6	7
強く そう思う	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう思わない	そう 思わない	強く そう思わない

C 私は、社会のために役に立ちたい。

1	2	3	4	5	6	7
強く そう思う	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない	どちらか といえば そう思わない	そう 思わない	強く そう思わない

6

あなたのご近所づきあいについておろかがいします。

Q20 次のことは、どの程度あてはまりますか。

A 近所の人には、お互いに気にかけている。

1	2	3	4	5	6	7
よく あてはまる	あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらか といえば あてはまらない	あてはまらない	まったく あてはまらない

B 近所の人には、私が困っていたら手助けしてくれる。

1	2	3	4	5	6	7
よく あてはまる	あてはまる	どちらか といえば あてはまる	どちらとも いえない	どちらか といえば あてはまらない	あてはまらない	まったく あてはまらない

Q21 ふだんの生活の中で、あいさつ程度の最小限のつきあいをしている近所の人には、何人いますか。

1	2	3	4	5	6
0人	1~4人	5~9人	10~14人	15~24人	25人以上

Q22 日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている近所の人には、何人いますか。

1	2	3	4	5	6
0人	1~4人	5~9人	10~14人	15~24人	25人以上

Q23 互いに抑さしたり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている近所の人には、何人いますか。

1	2	3	4	5	6
0人	1~4人	5~9人	10~14人	15~24人	25人以上

人や組織に対する信頼についておろかがいします。

Q24 一般的に、人は信用できると思いますか、それとも、人と付き合うときには、できるだけ用心したほうがよいと思いますか。 1つだけ○をつけてください。

- 1 ほとんどの場合、信用できる
- 2 たいていは、信用できる
- 3 たいていは、用心したほうがよい
- 4 ほとんどの場合、用心したほうがよい

7

A票

Q21 次における人について、あなたはどれくらい信頼していますか。

	とても 信頼している	ある程度 信頼している	あまり 信頼していない	まったく 信頼していない
A 親類	1	2	3	4
B 友人	1	2	3	4
C 近所の人	1	2	3	4
D 職場の人	1	2	3	4
E 初対面の人	1	2	3	4
F 医者	1	2	3	4
G 銀行員	1	2	3	4
H 企業経営者・役員	1	2	3	4
I 報道関係者	1	2	3	4
J 非政府組織や非営利団体のリーダー	1	2	3	4
K 教員	1	2	3	4
L 地方公務員	1	2	3	4
M 国家公務員	1	2	3	4
N 警察官	1	2	3	4
O 自衛隊員	1	2	3	4
P 裁判官	1	2	3	4

Q22 次における機関・組織について、あなたはどれくらい信頼していますか。

	とても 信頼している	ある程度 信頼している	あまり 信頼していない	まったく 信頼していない
A 医療機関	1	2	3	4
B 金融機関	1	2	3	4
C 大企業	1	2	3	4
D 報道機関	1	2	3	4
E 非政府組織や非営利団体	1	2	3	4
F 学校	1	2	3	4
G 地方自治体	1	2	3	4
H 政府	1	2	3	4
I 警察	1	2	3	4
J 自衛隊	1	2	3	4
K 裁判所	1	2	3	4

8

Q23 人間の本性について、あなたはどのようにお考えですか。番号(1～7)を1つだけ○をつけてください。

人間の本性は本来「悪」である

人間の本性は本来「善」である

1 2 3 4 5 6 7

Q24 「意図がわかるまでは、その人を信頼してはならない」という意見について、あなたはどう思いますか。

1 2 3 4 5 6 7

強く賛成 賛成 どちらかといえば賛成 どちらかといえばいい どちらかといえば反対 反対 強く反対

Q25 あなたは、自分の人生を変えるような重大な決断をすることができますと感じていますか。以下の記述のうちもっとも近いものを選んでください。

1 人生を変えることは、ほとんどできないと感じている

2 どちらかといえば、人生を変えることはできないと感じている

3 どちらかといえば、人生を変えることはできると感じている

4 人生を変えることは、十分にできると感じている

最後に、統計的な整理のために、あなた自身のことについておうかがいます。

Q26 あなたの性別を教えてください。

1 男性 2 女性

Q27 あなたの年齢はこの中のどれにあてはまりますか。

1 20～29歳 4 50～59歳 7 80歳以上

2 30～39歳 5 60～69歳

3 40～49歳 6 70～79歳

Q28 あなたは、現在の地域にどれくらい住んでいますか。

1 生まれてからずっと 5 5年～10年未満

2 1年未満 6 10年～20年未満

3 1年～3年未満 7 20年～30年未満

4 3年～5年未満 8 30年以上

9

B票

Q25 次における人について、あなたはどれくらい信頼していますか。

	とても 信頼している	少しは 信頼している	ほとんど 信頼していない
A 親類	1	2	3
B 友人	1	2	3
C 近所の人	1	2	3
D 職場の人	1	2	3
E 初対面の人	1	2	3
F 医者	1	2	3
G 銀行員	1	2	3
H 企業経営者・役員	1	2	3
I 報道関係者	1	2	3
J 非政府組織や非営利団体のリーダー	1	2	3
K 教員	1	2	3
L 地方公務員	1	2	3
M 国家公務員	1	2	3
N 警察官	1	2	3
O 自衛隊員	1	2	3
P 裁判官	1	2	3

Q26 次における機関・組織について、あなたはどれくらい信頼していますか。

	とても 信頼している	少しは 信頼している	ほとんど 信頼していない
A 医療機関	1	2	3
B 金融機関	1	2	3
C 大企業	1	2	3
D 報道機関	1	2	3
E 非政府組織や非営利団体	1	2	3
F 学校	1	2	3
G 地方自治体	1	2	3
H 政府	1	2	3
I 警察	1	2	3
J 自衛隊	1	2	3
K 裁判所	1	2	3

8

Q27 人間の本性について、あなたはどのようにお考えですか。番号(1～7)を1つだけ○をつけてください。

人間の本性は本来「悪」である

人間の本性は本来「善」である

1 2 3 4 5 6 7

Q28 「意図がわかるまでは、その人を信頼してはならない」という意見について、あなたはどう思いますか。

1 2 3 4 5 6 7

強く賛成 賛成 どちらかといえば賛成 どちらかといえばいい どちらかといえば反対 反対 強く反対

Q29 あなたは、自分の人生を変えるような重大な決断をすることができますと感じていますか。以下の記述のうちもっとも近いものを選んでください。

1 人生を変えることは、ほとんどできないと感じている

2 どちらかといえば、人生を変えることはできないと感じている

3 どちらかといえば、人生を変えることはできると感じている

4 人生を変えることは、十分にできると感じている

最後に、統計的な整理のために、あなた自身のことについておうかがいます。

Q30 あなたの性別を教えてください。

1 男性 2 女性

Q31 あなたの年齢はこの中のどれにあてはまりますか。

1 20～29歳 4 50～59歳 7 80歳以上

2 30～39歳 5 60～69歳

3 40～49歳 6 70～79歳

Q32 あなたは、現在の地域にどれくらい住んでいますか。

1 生まれてからずっと 5 5年～10年未満

2 1年未満 6 10年～20年未満

3 1年～3年未満 7 20年～30年未満

4 3年～5年未満 8 30年以上

9

A 票

Q29 現在、あなたといっしょに住んでいる方は、どなたですか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。

1 配偶者	6 孫
2 子ども	7 配偶者の親
3 親	8 その他の親族
4 祖父母	9 親族以外の方
5 子どもの配偶者	10 ひとり暮らし

Q30 あなたが最後に通った（または現在通っている）学校は、次のどれにあたりますか。中道も、卒業と同じ扱いでお答えください。1つだけ○をつけてください。

- 1 中学校（旧制小学校）
- 2 高校（旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校）
- 3 短大・高专
- 4 専門学校
- 5 大学（旧制高校・大学）・大学院
- 6 わからない

Q31 あなたは現在、収入をともなお仕事をしていますか。している場合、その主なお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。現在、お仕事をしていない方は、番号6に○をつけてください。

- 1 自営業主・自由業者
- 2 家族従業者
- 3 経営者・役員
- 4 正規の社員・職員
- 5 パート・アルバイト・嘱託・臨時・派遣・内職
- 6 現在、仕事をしていない

Q32 あなたのお仕事の内容は、この中のどれにあたりますか。現在、働いていない方は、以前の主なお仕事の内容に1つだけ○をつけてください。これまでに一度もお仕事をされていない方は、番号10に○をつけてください。

- 1 管理的な職業（経営者、役員、部長、課長・店長など）
- 2 専門・技術的職業（技術者、教員、弁護士など）
- 3 事務的職業（総務、経理、企画、営業事務など）
- 4 販売的職業（小売店主、店員、外交員など）
- 5 サービス的職業（理美容、調理、家事サービスなど）
- 6 運輸・通信的職業（運転手、船員、通信員、郵便外務など）
- 7 保安・警備的職業（守衛、警官、自衛官など）
- 8 製造・建設的職業（工場作業・建築作業者など）
- 9 農林漁業・鉱業
- 10 これまでに一度も仕事をしたことがない

10

Q33 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。

非常に良い ← 1 2 3 4 5 → 非常に悪い

この調査票のなかで、答えにくかったり、分りづらい質問や表現がありましたら、お気づきになったことを下の枠内にご自由にお書き下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

長時間のご協力、誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れて、ポストにご投函いただきますよう、お願ひ申し上げます。

11

B 票

Q34 現在、あなたといっしょに住んでいる方は、どなたですか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。

1 配偶者	6 孫
2 子ども	7 配偶者の親
3 親	8 その他の親族
4 祖父母	9 親族以外の方
5 子どもの配偶者	10 ひとり暮らし

Q35 あなたが最後に通った（または現在通っている）学校は、次のどれにあたりますか。中道も、卒業と同じ扱いでお答えください。1つだけ○をつけてください。

- 1 中学校（旧制小学校）
- 2 高校（旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校）
- 3 短大・高专
- 4 専門学校
- 5 大学（旧制高校・大学）・大学院
- 6 わからない

Q36 あなたは現在、収入をともなお仕事をしていますか。している場合、その主なお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。現在、お仕事をしていない方は、番号6に○をつけてください。

- 1 自営業主・自由業者
- 2 家族従業者
- 3 経営者・役員
- 4 正規の社員・職員
- 5 パート・アルバイト・嘱託・臨時・派遣・内職
- 6 現在、仕事をしていない

Q36 あなたのお仕事の内容は、この中のどれにあたりますか。現在、働いていない方は、以前の主なお仕事の内容に1つだけ○をつけてください。これまでに一度もお仕事をされていない方は、番号10に○をつけてください。

- 1 管理的な職業（経営者、役員、部長、課長・店長など）
- 2 専門・技術的職業（技術者、教員、弁護士など）
- 3 事務的職業（総務、経理、企画、営業事務など）
- 4 販売的職業（小売店主、店員、外交員など）
- 5 サービス的職業（理美容、調理、家事サービスなど）
- 6 運輸・通信的職業（運転手、船員、通信員、郵便外務など）
- 7 保安・警備的職業（守衛、警官、自衛官など）
- 8 製造・建設的職業（工場作業・建築作業者など）
- 9 農林漁業・鉱業
- 10 これまでに一度も仕事をしたことがない

10

Q37 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。

非常に良い ← 1 2 3 4 5 → 非常に悪い

この調査票のなかで、答えにくかったり、分りづらい質問や表現がありましたら、お気づきになったことを下の枠内にご自由にお書き下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

長時間のご協力、誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れて、ポストにご投函いただきますよう、お願ひ申し上げます。

11

JGSS第1回プリテスト (EASS 2012 NSCモジュール) の結果：度数分布表

選択肢のラベルは簡略化している場合があります。

項目番号はA票に従います。A票とB票で異なる場合のみ、B票の項目番号を付記しています。

社会的ネットワーク

Q1 次にあげる会や組織に入っていますか。入っている場合は、どの程度積極的に参加していますか。

A 政治関係の団体や会

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	3	1.5
2 入っているが、積極的に参加していない	13	6.6
3 入っていない	152	77.6
合計	168	85.7
9 無回答	28	14.3
	196	100.0

B 地縁組織 (自治会・町内会)

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	21	10.7
2 入っているが、積極的に参加していない	79	40.3
3 入っていない	69	35.2
合計	169	86.2
9 無回答	27	13.8
	196	100.0

C ボランティア・NPO

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	11	5.6
2 入っているが、積極的に参加していない	6	3.1
3 入っていない	152	77.6
合計	169	86.2
9 無回答	27	13.8
	196	100.0

D 市民運動・消費者運動のグループ

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	1	0.5
2 入っているが、積極的に参加していない	6	3.1
3 入っていない	160	81.6
合計	167	85.2
9 無回答	29	14.8
	196	100.0

E 宗教の団体や会

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	12	6.1
2 入っているが、積極的に参加していない	14	7.1
3 入っていない	145	74.0
合計	171	87.2
9 無回答	25	12.8
	196	100.0

F 同窓会

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	27	13.8
2 入っているが、積極的に参加していない	49	25.0
3 入っていない	93	47.4
合計	169	86.2
9 無回答	27	13.8
	196	100.0

G 趣味の会やスポーツクラブ

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	42	21.4
2 入っているが、積極的に参加していない	12	6.1
3 入っていない	114	58.2
合計	168	85.7
9 無回答	28	14.3
	196	100.0

H 労働組合

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	2	1.0
2 入っているが、積極的に参加していない	12	6.1
3 入っていない	152	77.6
合計	166	84.7
9 無回答	30	15.3
	196	100.0

I (A票) 専門職協会・学術団体

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	2	2.3
2 入っているが、積極的に参加していない	2	2.3
3 入っていない	68	78.2
合計	72	82.8
9 無回答	15	17.2
	87	100.0

J (A票) 業界団体・同業者団体

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	2	2.3
2 入っているが、積極的に参加していない	6	6.9
3 入っていない	64	73.6
合計	72	82.8
9 無回答	15	17.2
	87	100.0

I (B票) 業界/同業者団体・専門職協会・学術団体

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 積極的に参加している	3	2.8
2 入っているが、積極的に参加していない	7	6.4
3 入っていない	84	77.1
合計	94	86.2
9 無回答	15	13.8
	109	100.0

Q2 過去1年間に、あなたが参加した会や組織はどれですか。

(A票:もっとも多い参加、B票:もっとも積極的な参加)

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 政治関係の団体や会	3	3.4
2 地縁組織(自治会・町内会)	13	14.9
3 ボランティア・NPO	4	4.6
4 市民運動・消費者運動のグループ	0	0.0
5 宗教の団体や会	8	9.2
6 同窓会	6	6.9
7 趣味の会やスポーツクラブ	14	16.1
8 労働組合	1	1.1
9 専門職協会・学術団体	2	2.3
10 業界団体・同業者団体	3	3.4
11 いずれの会や組織にも入っていない	25	28.7
合計	79	90.8
99 無回答	8	9.2
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 政治関係の団体や会	1	0.9
2 地縁組織(自治会・町内会)	14	12.8
3 ボランティア・NPO	4	3.7
4 市民運動・消費者運動のグループ	0	0.0
5 宗教の団体や会	5	4.6
6 同窓会	12	11.0
7 趣味の会やスポーツクラブ	23	21.1
8 労働組合	4	3.7
9 業界/同業者団体・専門職協会・学術団体	4	3.7
10 いずれの会や組織にも入っていない	28	25.7
合計	95	87.2
99 無回答	14	12.8
	109	100.0

Q3 過去1年間に参加した会や組織のなかの人間関係は、以下の記述のうちどれにもっとも近いですか。

(A票:もっとも多い参加、B票:もっとも積極的な参加)

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 上下関係が非常に明確である	8	9.2
2 上下関係はあるが、ときどき役割を交代	9	10.3
3 上下関係は明確ではなく、平等である	18	20.7
4 完全に平等な関係にある	22	25.3
合計	57	65.5
8 非該当	24	27.6
9 無回答	6	6.9
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 上下関係が非常に明確である	8	7.3
2 上下関係はあるが、ときどき役割を交代	14	12.8
3 上下関係は明確ではなく、平等である	23	21.1
4 完全に平等な関係にある	28	25.7
合計	73	67.0
8 非該当	26	23.9
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

Q4 過去1年間に参加した会や組織の人たちの考え方や行動は、お互いに異なりますか。

(A票:もっとも多い参加、B票:もっとも積極的な参加)

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 ほとんど全員が同じ	7	8.0
2 同じ考え方や行動をしている人が多い	41	47.1
3 同じ考え方や行動をしている人は少ない	6	6.9
4 ほとんど全員が異なる	2	2.3
合計	56	64.4
8 非該当	24	27.6
9 無回答	7	8.0
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 ほとんど全員が同じ	5	4.6
2 同じ考え方や行動をしている人が多い	55	50.5
3 同じ考え方や行動をしている人は少ない	10	9.2
4 ほとんど全員が異なる	3	2.8
合計	73	67.0
8 非該当	26	23.9
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

Q5 あなたがふだん1日に接する家族や親類は、同居している人を除いて何人くらいですか。

(電話、メール、直接会うことを含む)

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 0人	44	22.4
2 1~4人	111	56.6
3 5~9人	22	11.2
4 10~19人	6	3.1
5 20~49人	9	4.6
6 50~99人	0	0.0
7 100人以上	1	0.5
合計	193	98.5
9 無回答	3	1.5
	196	100.0

Q6 家族や親類以外で、あなたがふだん1日に接する人は、何人くらいですか。

(電話、メール、直接会うことを含む)

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 0人	15	7.7
2 1~4人	65	33.2
3 5~9人	34	17.3
4 10~19人	36	18.4
5 20~49人	29	14.8
6 50~99人	10	5.1
7 100人以上	5	2.6
合計	194	99.0
9 無回答	2	1.0
	196	100.0

Q7 家族や親類以外であなたがふだん1日に接する人たちは、以下の記述のうちどれにもっとも近いですか。

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 あなたより立場や地位の高い人が多い	5	2.6
2 あなたより立場や地位の低い人が多い	4	2.0
3 あなたと立場や地位がほぼ同じ人が多い	68	34.7
4 さまざまな立場や地位の人がいる	103	52.6
5 家族や親類以外でふだん接する人はいない	14	7.1
合計	194	99.0
9 無回答	2	1.0
	196	100.0

Q8 あなたがよく会話をする親類、友人、知り合いのなかで、以下のような職業をもつ人はいますか。

(A: n = 87)	選択	非選択	無回答	(B: n = 109)	選択	非選択	無回答
A 議員・上級公務員・自治体幹部	16.1	70.1	13.8	A 大学教員	11.0	78.9	10.1
B 管理職	41.4	42.5	16.1	B 弁護士	8.3	81.7	10.1
C 専門職	46.0	34.5	19.5	C 看護師	31.2	62.4	6.4
D 技術支援職・専門補佐職	17.2	65.5	17.2	D コンピューター・プログラマー	16.5	74.3	9.2
E 事務的職業	56.3	29.9	13.8	E 中学校の教員	5.5	84.4	10.1
F サービス的職業・販売的職業	59.8	26.4	13.8	F 人事部長	8.3	81.7	10.1
G 農林漁業従事者	6.9	74.7	18.4	G 農業従事者	19.3	71.6	9.2
H 技能工・職人	35.6	51.7	12.6	H 美容師・理容師	27.5	65.1	7.3
I 簡単な機械や乗り物の操作をする職業	26.4	55.2	18.4	I 受付係	15.6	76.1	8.3
J 特に熟練を要しない簡易な職業	42.5	37.9	19.5	J 警察官	12.8	78.9	8.3

Q9 あなたには、以下のような親類、友人、知り合いはいますか。

(AB: n = 196)	選択	非選択	無回答
A 他の都道府県居住の知り合い	94.9	4.1	1.0
B 海外に住んでいる親類知り合い	20.9	70.4	8.7
C 外国人の知り合い	19.9	70.9	9.2

Q10-1 現在/最後の仕事につく前に、就職機会に関する情報を提供してくれた親類、友人、知り合いはいましたか

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 いた	92	46.9
2 いなかった	70	35.7
3 仕事についたことはない	9	4.6
合計	171	87.2
9 無回答	25	12.8
	196	100.0

Q10-3 その人たちからの協力は、仕事を獲得するのに役立ちましたか。

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 役に立たなかった	17	8.7
2 少し役に立った	47	24.0
3 非常に役に立った	70	35.7
合計	134	68.4
8 非該当	9	4.6
9 無回答	53	27.0
	196	100.0

Q10-2 現在/最後の仕事を獲得する際に、あなたに協力してくれた親類、友人、知り合いは何人いましたか（情報提供、口利き、励ましなど）。

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 0人	41	20.9
2 1人	17	8.7
3 2人	36	18.4
4 3人	29	14.8
5 4人	11	5.6
6 5人	7	3.6
7 6人以上	22	11.2
合計	163	83.2
8 非該当	9	4.6
9 無回答	24	12.2
	196	100.0

Q11-1 家族や親類以外の人といっしょに、外食したり飲みに行くことがどのくらいありますか。

(A: n = 196)	度数	パーセント
1 非常に頻繁に	6	3.1
2 頻繁に	17	8.7
3 時々	123	62.8
4 ほとんどない	35	17.9
5 まったくない	15	7.7
合計	196	100.0
9 無回答	0	0.0
	196	100.0

Q11-2 その時に、新しい知り合いができることは、どのくらいありますか。

(A: n = 196)	度数	パーセント
1 非常に頻繁に	0	0.0
2 頻繁に	3	1.5
3 時々	54	27.6
4 ほとんどない	96	49.0
5 まったくない	28	14.3
合計	181	92.3
8 非該当	10	5.1
9 無回答	5	2.6
	196	100.0

Q12 最初に誰に助けを求めましたか。(A票：一番最近の出来事、B票：過去5年間の出来事)

A 悩みや心理的な問題

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 同居家族	45	51.7
2 その他の親族	7	8.0
3 職場の人	1	1.1
4 近所の人	1	1.1
5 友人	16	18.4
6 専門職の人(警察・消防など)	1	1.1
7 誰にも助けを求めなかった	10	11.5
8 そのような問題は経験したことがない	5	5.7
合計	86	98.9
9 無回答	1	1.1
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 同居家族	47	43.1
2 その他の親族	5	4.6
3 職場の人	4	3.7
4 近所の人	0	0.0
5 友人	20	18.3
6 専門職の人(警察・消防など)	1	0.9
7 誰にも助けを求めなかった	7	6.4
8 そのような問題は経験したことがない	22	20.2
合計	106	97.2
9 無回答	3	2.8
	109	100.0

B 健康上の問題

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 同居家族	62	71.3
2 その他の親族	4	4.6
3 職場の人	3	3.4
4 近所の人	0	0.0
5 友人	4	4.6
6 専門職の人(警察・消防など)	6	6.9
7 誰にも助けを求めなかった	3	3.4
8 そのような問題は経験したことがない	5	5.7
合計	87	100.0
9 無回答	0	0.0
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 同居家族	72	66.1
2 その他の親族	6	5.5
3 職場の人	2	1.8
4 近所の人	0	0.0
5 友人	4	3.7
6 専門職の人(警察・消防など)	13	11.9
7 誰にも助けを求めなかった	0	0.0
8 そのような問題は経験したことがない	10	9.2
合計	107	98.2
9 無回答	2	1.8
	109	100.0

C 家事や育児、介護の問題

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 同居家族	53	60.9
2 その他の親族	4	4.6
3 職場の人	2	2.3
4 近所の人	0	0.0
5 友人	3	3.4
6 専門職の人(警察・消防など)	1	1.1
7 誰にも助けを求めなかった	7	8.0
8 そのような問題は経験したことがない	16	18.4
合計	86	98.9
9 無回答	1	1.1
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 同居家族	50	45.9
2 その他の親族	12	11.0
3 職場の人	0	0.0
4 近所の人	0	0.0
5 友人	2	1.8
6 専門職の人(警察・消防など)	5	4.6
7 誰にも助けを求めなかった	1	0.9
8 そのような問題は経験したことがない	36	33.0
合計	106	97.2
9 無回答	3	2.8
	109	100.0

D 金銭的な問題

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 同居家族	32	36.8
2 その他の親族	14	16.1
3 職場の人	0	0.0
4 近所の人	0	0.0
5 友人	2	2.3
6 専門職の人(警察・消防など)	2	2.3
7 誰にも助けを求めなかった	7	8.0
8 そのような問題は経験したことがない	30	34.5
合計	87	100.0
9 無回答	0	0.0
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 同居家族	39	35.8
2 その他の親族	13	11.9
3 職場の人	0	0.0
4 近所の人	0	0.0
5 友人	2	1.8
6 専門職の人(警察・消防など)	2	1.8
7 誰にも助けを求めなかった	5	4.6
8 そのような問題は経験したことがない	47	43.1
合計	108	99.1
9 無回答	1	0.9
	109	100.0

E 緊急時や災害時

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 同居家族	41	47.1
2 その他の親族	3	3.4
3 職場の人	0	0.0
4 近所の人	2	2.3
5 友人	2	2.3
6 専門職の人(警察・消防など)	2	2.3
7 誰にも助けを求めなかった	2	2.3
8 そのような問題は経験したことがない	34	39.1
合計	86	98.9
9 無回答	1	1.1
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 同居家族	37	33.9
2 その他の親族	5	4.6
3 職場の人	1	0.9
4 近所の人	1	0.9
5 友人	2	1.8
6 専門職の人(警察・消防など)	3	2.8
7 誰にも助けを求めなかった	4	3.7
8 そのような問題は経験したことがない	56	51.4
合計	109	100.0
9 無回答	0	0.0
	109	100.0

社会参加

Q13 社会問題や出来事について意見が違っていても、以下の人たち（家族を除く）と話ができますか。

（A票：知り合いの人、B票：親しい人）

A あなたと立場や地位がほぼ同じ人

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 よくできる	31	35.6
2 ある程度できる	46	52.9
3 あまりできない	4	4.6
4 まったくできない	4	4.6
合計	85	97.7
9 無回答	2	2.3
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 よくできる	36	33.0
2 ある程度できる	57	52.3
3 あまりできない	11	10.1
4 まったくできない	2	1.8
合計	106	97.2
9 無回答	3	2.8
	109	100.0

B あなたより立場や地位が高い人

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 よくできる	11	12.6
2 ある程度できる	49	56.3
3 あまりできない	13	14.9
4 まったくできない	7	8.0
合計	80	92.0
9 無回答	7	8.0
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 よくできる	14	12.8
2 ある程度できる	55	50.5
3 あまりできない	25	22.9
4 まったくできない	5	4.6
合計	99	90.8
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

C あなたより立場や地位が低い人

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 よくできる	13	14.9
2 ある程度できる	53	60.9
3 あまりできない	11	12.6
4 まったくできない	3	3.4
合計	80	92.0
9 無回答	7	8.0
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 よくできる	25	22.9
2 ある程度できる	56	51.4
3 あまりできない	13	11.9
4 まったくできない	4	3.7
合計	98	89.9
9 無回答	11	10.1
	109	100.0

Q14 過去1年間に、地域における次のような問題について話し合う集会や会合に参加したことがありますか。

A 環境問題

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 まったくない	163	83.2
2 1~2回	19	9.7
3 数回	8	4.1
4 月に1回以上	3	1.5
合計	193	98.5
9 無回答	3	1.5
	196	100.0

C 安全・安心に関する問題

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 まったくない	147	75.0
2 1~2回	24	12.2
3 数回	14	7.1
4 月に1回以上	3	1.5
合計	188	95.9
9 無回答	8	4.1
	196	100.0

B 教育問題

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 まったくない	165	84.2
2 1~2回	15	7.7
3 数回	7	3.6
4 月に1回以上	3	1.5
合計	190	96.9
9 無回答	6	3.1
	196	100.0

D 消費者問題

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 まったくない	164	83.7
2 1~2回	14	7.1
3 数回	9	4.6
4 月に1回以上	2	1.0
合計	189	96.4
9 無回答	7	3.6
	196	100.0

Q15 過去1年間に、以下のような活動を行ったことがありますか。

(AB: n = 196)	選択	非選択
まちづくりのためのボランティア活動	13.3	86.7
スポーツ・文化等に関係したボランティア活動	7.1	92.9
社会的な支援を必要とする人を対象とした活動	11.7	88.3
政治や政策に関連する活動	14.8	85.2

Q16 自然災害が起こった場合、あなたの地域の人々は、うまく対処できると思いますか。

(A: n = 196)	度数	パーセント
1 強くそう思う	4	2.0
2 そう思う	24	12.2
3 どちらかといえばそう思う	36	18.4
4 どちらともいえない	82	41.8
5 どちらかといえばそう思わない	21	10.7
6 そう思わない	20	10.2
7 強くそう思わない	8	4.1
合計	195	99.5
9 無回答	1	0.5
	196	100.0

Q17 最近の主要な選挙のときに、あなたは特定の候補者への投票や、選挙運動への参加を頼まれましたか。

(A: n = 196)	選択	非選択	無回答
1 家族・親類	18.4	79.1	2.6
2 職場の人	8.7	88.8	2.6
3 近所の人	25.5	71.9	2.6
4 友人	21.9	75.5	2.6
5 信仰しているお寺や神社や教会の人	7.1	90.3	2.6
6 趣味の会やボランティア・グループの	4.6	92.9	2.6
7 選挙運動員	17.3	80.1	2.6
8 その他の人	2.6	94.9	2.6
9 誰からも頼まれなかった	34.2	63.3	2.6

Q18 あなたは以下の意見についてどう思いますか。(B票Q19)

A 自分のようなふつうの市民には、政府のすることに対して、それを左右する力はない。

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 強く賛成	6	6.9
2 賛成	8	9.2
3 どちらかといえば賛成	9	10.3
4 どちらともいえない	38	43.7
5 どちらかといえば反対	7	8.0
6 反対	6	6.9
7 強く反対	7	8.0
合計	81	93.1
9 無回答	6	6.9
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 強くそう思う	11	10.1
2 そう思う	23	21.1
3 どちらかといえばそう思う	30	27.5
4 どちらともいえない	8	7.3
5 どちらかといえばそう思わない	8	7.3
6 そう思わない	21	19.3
7 強くそう思わない	6	5.5
合計	107	98.2
9 無回答	2	1.8
	109	100.0

B 政治や政府は複雑なので、自分には何をやっているのかよく理解できない。

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 強く賛成	6	6.9
2 賛成	7	8.0
3 どちらかといえば賛成	16	18.4
4 どちらともいえない	34	39.1
5 どちらかといえば反対	6	6.9
6 反対	9	10.3
7 強く反対	4	4.6
合計	82	94.3
9 無回答	5	5.7
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 強くそう思う	9	8.3
2 そう思う	18	16.5
3 どちらかといえばそう思う	25	22.9
4 どちらともいえない	17	15.6
5 どちらかといえばそう思わない	15	13.8
6 そう思わない	19	17.4
7 強くそう思わない	3	2.8
合計	106	97.2
9 無回答	3	2.8
	109	100.0

C 私は、政治に対して関心がある。(B票Q18)

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 強く賛成	6	6.9
2 賛成	15	17.2
3 どちらかといえば賛成	19	21.8
4 どちらともいえない	29	33.3
5 どちらかといえば反対	10	11.5
6 反対	2	2.3
7 強く反対	3	3.4
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 関心がある	36	33.0
2 どちらかといえば関心がある	44	40.4
3 どちらかといえば関心がない	24	22.0
4 関心はない	3	2.8
合計	107	98.2
9 無回答	2	1.8
	109	100.0

D 私は、社会のために役立ちたい。

(A: n = 87)		度数	パーセント
1 強く賛成		5	5.7
2 賛成		21	24.1
3 どちらかといえば賛成		29	33.3
4 どちらともいえない		28	32.2
5 どちらかといえば反対		0	0.0
6 反対		1	1.1
7 強く反対		1	1.1
合計		85	97.7
9 無回答		2	2.3
		87	100.0

(B: n = 109)		度数	パーセント
1 強くそう思う		13	11.9
2 そう思う		26	23.9
3 どちらかといえばそう思う		25	22.9
4 どちらともいえない		33	30.3
5 どちらかといえばそう思わない		4	3.7
6 そう思わない		2	1.8
7 強くそう思わない		4	3.7
合計		107	98.2
9 無回答		2	1.8
		109	100.0

E 近所の人は、お互いに気にかけている。

(A: n = 87)		度数	パーセント
1 強く賛成		5	5.7
2 賛成		18	20.7
3 どちらかといえば賛成		21	24.1
4 どちらともいえない		33	37.9
5 どちらかといえば反対		6	6.9
6 反対		2	2.3
7 強く反対		1	1.1
合計		86	98.9
9 無回答		1	1.1
		87	100.0

(B: n = 109)		度数	パーセント
1 強くそう思う		8	7.3
2 そう思う		14	12.8
3 どちらかといえばそう思う		39	35.8
4 どちらともいえない		24	22.0
5 どちらかといえばそう思わない		14	12.8
6 そう思わない		4	3.7
7 強くそう思わない		5	4.6
合計		108	99.1
9 無回答		1	0.9
		109	100.0

F 近所の人は、私が困っていたら手助けしてくれる。

(A: n = 87)		度数	パーセント
1 強く賛成		4	4.6
2 賛成		9	10.3
3 どちらかといえば賛成		20	23.0
4 どちらともいえない		39	44.8
5 どちらかといえば反対		8	9.2
6 反対		3	3.4
7 強く反対		1	1.1
合計		84	96.6
9 無回答		3	3.4
		87	100.0

(B: n = 109)		度数	パーセント
1 強くそう思う		3	2.8
2 そう思う		17	15.6
3 どちらかといえばそう思う		32	29.4
4 どちらともいえない		34	31.2
5 どちらかといえばそう思わない		7	6.4
6 そう思わない		12	11.0
7 強くそう思わない		3	2.8
合計		108	99.1
9 無回答		1	0.9
		109	100.0

Q19 あなたのご近所づきあいについておうかがいします。

A ぶだんの生活の中で、挨拶程度の最小限のつきあいをしている近所の人の数 (B票Q21)

	A票 (A: n = 87)		B票 (B: n = 109)		全体 (AB: n = 196)	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1 0人	5	5.7	4	3.7	9	4.6
2 1~4人	31	35.6	30	27.5	61	31.1
3 5~9人	27	31.0	45	41.3	72	36.7
4 10~14人	15	17.2	20	18.3	35	17.9
5 15~24人	4	4.6	6	5.5	10	5.1
6 25人以上	4	4.6	3	2.8	7	3.6
合計	86	98.9	108	99.1	194	99.0
9 無回答	1	1.1	1	0.9	2	1.0
	87	100.0	109	100.0	196	100.0

B 日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている近所の人の数 (B票Q22)

	A票 (A: n = 87)		B票 (B: n = 109)		全体 (AB: n = 196)	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
1 0人	17	19.5	18	16.5	35	17.9
2 1~4人	43	49.4	59	54.1	102	52.0
3 5~9人	20	23.0	23	21.1	43	21.9
4 10~14人	4	4.6	5	4.6	9	4.6
5 15~24人	2	2.3	2	1.8	4	2.0
6 25人以上	0	0.0	1	0.9	1	0.5
合計	86	98.9	108	99.1	194	99.0
9 無回答	1	1.1	1	0.9	2	1.0
	87	100.0	109	100.0	196	100.0

B票Q23 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている近所の人の数 (A票なし)

(B: n = 109)		度数	パーセント
1 0人		54	49.5
2 1~4人		47	43.1
3 5~9人		5	4.6
4 10~14人		0	0.0
5 15~24人		0	0.0
6 25人以上		0	0.0
合計		106	97.2
9 無回答		3	2.8
		109	100.0

社会的信頼

Q20 一般的に人は信頼できると思いますか。

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 ほとんどの場合、信用できる	8	4.1
2 たいていは、信用できる	105	53.6
3 たいていは、用心したほうがよい	63	32.1
4 ほとんどの場合、用心したほうがよい	18	9.2
合計	194	99.0
9 無回答	2	1.0
	196	100.0

Q21 次にあげる人について、どれくらい信頼していますか。(B票Q25)

A 親類

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	45	51.7
2 ある程度信頼している	34	39.1
3 あまり信頼していない	4	4.6
4 まったく信頼していない	2	2.3
合計	85	97.7
9 無回答	2	2.3
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	63	57.8
2 少しは信頼している	36	33.0
3 ほとんど信頼していない	3	2.8
合計	102	93.6
9 無回答	7	6.4
	109	100.0

B 友人

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	29	33.3
2 ある程度信頼している	49	56.3
3 あまり信頼していない	6	6.9
4 まったく信頼していない	1	1.1
合計	85	97.7
9 無回答	2	2.3
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	63	57.8
2 少しは信頼している	38	34.9
3 ほとんど信頼していない	3	2.8
合計	104	95.4
9 無回答	5	4.6
	109	100.0

C 近所の人

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	3	3.4
2 ある程度信頼している	51	58.6
3 あまり信頼していない	25	28.7
4 まったく信頼していない	5	5.7
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	10	9.2
2 少しは信頼している	75	68.8
3 ほとんど信頼していない	19	17.4
合計	104	95.4
9 無回答	5	4.6
	109	100.0

D 職場の人

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	7	8.0
2 ある程度信頼している	44	50.6
3 あまり信頼していない	23	26.4
4 まったく信頼していない	1	1.1
合計	75	86.2
9 無回答	12	13.8
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	25	22.9
2 少しは信頼している	49	45.0
3 ほとんど信頼していない	14	12.8
合計	88	80.7
9 無回答	21	19.3
	109	100.0

E 初対面の人

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	1	1.1
2 ある程度信頼している	13	14.9
3 あまり信頼していない	49	56.3
4 まったく信頼していない	21	24.1
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	0	0.0
2 少しは信頼している	28	25.7
3 ほとんど信頼していない	73	67.0
合計	101	92.7
9 無回答	8	7.3
	109	100.0

Q21 次にあげる人について、どれくらい信頼していますか。(B票Q25) A~Eは前ページに記載

F 医者
(A: n = 87)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	7	8.0
2 ある程度信頼している	70	80.5
3 あまり信頼していない	7	8.0
4 まったく信頼していない	1	1.1
合計	85	97.7
9 無回答	2	2.3
	87	100.0

(B: n = 109)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	33	30.3
2 少しは信頼している	59	54.1
3 ほとんど信頼していない	8	7.3
合計	100	91.7
9 無回答	9	8.3
	109	100.0

G 銀行員

(A: n = 87)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	0	0.0
2 ある程度信頼している	56	64.4
3 あまり信頼していない	24	27.6
4 まったく信頼していない	3	3.4
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	10	9.2
2 少しは信頼している	60	55.0
3 ほとんど信頼していない	31	28.4
合計	101	92.7
9 無回答	8	7.3
	109	100.0

H 企業経営者・役員

(A: n = 87)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	0	0.0
2 ある程度信頼している	34	39.1
3 あまり信頼していない	41	47.1
4 まったく信頼していない	6	6.9
合計	81	93.1
9 無回答	6	6.9
	87	100.0

(B: n = 109)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	7	6.4
2 少しは信頼している	56	51.4
3 ほとんど信頼していない	35	32.1
合計	98	89.9
9 無回答	11	10.1
	109	100.0

Q22 次にあげる機関・組織について、どれくらい信頼していますか。(B票Q26)

A 医療機関
(A: n = 87)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	5	5.7
2 ある程度信頼している	70	80.5
3 あまり信頼していない	8	9.2
4 まったく信頼していない	1	1.1
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	33	30.3
2 少しは信頼している	66	60.6
3 ほとんど信頼していない	6	5.5
合計	105	96.3
9 無回答	4	3.7
	109	100.0

B 金融機関

(A: n = 87)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	2	2.3
2 ある程度信頼している	58	66.7
3 あまり信頼していない	18	20.7
4 まったく信頼していない	5	5.7
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	17	15.6
2 少しは信頼している	59	54.1
3 ほとんど信頼していない	26	23.9
合計	102	93.6
9 無回答	7	6.4
	109	100.0

C 大企業

(A: n = 87)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	1	1.1
2 ある程度信頼している	51	58.6
3 あまり信頼していない	26	29.9
4 まったく信頼していない	6	6.9
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)

	度数	パーセント
1 とても信頼している	15	13.8
2 少しは信頼している	58	53.2
3 ほとんど信頼していない	26	23.9
合計	99	90.8
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

I 報道関係者

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	0	0.0
2 ある程度信頼している	22	25.3
3 あまり信頼していない	45	51.7
4 まったく信頼していない	14	16.1
合計	81	93.1
9 無回答	6	6.9
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	6	5.5
2 少しは信頼している	43	39.4
3 ほとんど信頼していない	50	45.9
合計	99	90.8
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

J 非政府組織や非営利団体のメンバー

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	0	0.0
2 ある程度信頼している	12	13.8
3 あまり信頼していない	48	55.2
4 まったく信頼していない	20	23.0
合計	80	92.0
9 無回答	7	8.0
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	4	3.7
2 少しは信頼している	41	37.6
3 ほとんど信頼していない	55	50.5
合計	100	91.7
9 無回答	9	8.3
	109	100.0

K 教員

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	2	2.3
2 ある程度信頼している	53	60.9
3 あまり信頼していない	25	28.7
4 まったく信頼していない	3	3.4
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	13	11.9
2 少しは信頼している	69	63.3
3 ほとんど信頼していない	19	17.4
合計	101	92.7
9 無回答	8	7.3
	109	100.0

D 報道機関

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	1	1.1
2 ある程度信頼している	31	35.6
3 あまり信頼していない	42	48.3
4 まったく信頼していない	8	9.2
合計	82	94.3
9 無回答	5	5.7
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	11	10.1
2 少しは信頼している	45	41.3
3 ほとんど信頼していない	43	39.4
合計	99	90.8
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

E 非政府組織や非営利団体

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	1	1.1
2 ある程度信頼している	18	20.7
3 あまり信頼していない	48	55.2
4 まったく信頼していない	15	17.2
合計	82	94.3
9 無回答	5	5.7
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	5	4.6
2 少しは信頼している	45	41.3
3 ほとんど信頼していない	49	45.0
合計	99	90.8
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

F 学校

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	4	4.6
2 ある程度信頼している	56	64.4
3 あまり信頼していない	22	25.3
4 まったく信頼していない	2	2.3
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	18	16.5
2 少しは信頼している	73	67.0
3 ほとんど信頼していない	9	8.3
合計	100	91.7
9 無回答	9	8.3
	109	100.0

L 地方公務員

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	0	0.0
2 ある程度信頼している	46	52.9
3 あまり信頼していない	31	35.6
4 まったく信頼していない	5	5.7
合計	82	94.3
9 無回答	5	5.7
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	8	7.3
2 少しは信頼している	63	57.8
3 ほとんど信頼していない	32	29.4
合計	103	94.5
9 無回答	6	5.5
	109	100.0

M 国家公務員

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	1	1.1
2 ある程度信頼している	41	47.1
3 あまり信頼していない	35	40.2
4 まったく信頼していない	6	6.9
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	6	5.5
2 少しは信頼している	58	53.2
3 ほとんど信頼していない	37	33.9
合計	101	92.7
9 無回答	8	7.3
	109	100.0

N 警察官

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	5	5.7
2 ある程度信頼している	55	63.2
3 あまり信頼していない	18	20.7
4 まったく信頼していない	6	6.9
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	17	15.6
2 少しは信頼している	59	54.1
3 ほとんど信頼していない	27	24.8
合計	103	94.5
9 無回答	6	5.5
	109	100.0

G 地方自治体

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	1	1.1
2 ある程度信頼している	43	49.4
3 あまり信頼していない	36	41.4
4 まったく信頼していない	3	3.4
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	11	10.1
2 少しは信頼している	71	65.1
3 ほとんど信頼していない	21	19.3
合計	103	94.5
9 無回答	6	5.5
	109	100.0

H 政府

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	1	1.1
2 ある程度信頼している	23	26.4
3 あまり信頼していない	43	49.4
4 まったく信頼していない	16	18.4
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	7	6.4
2 少しは信頼している	50	45.9
3 ほとんど信頼していない	46	42.2
合計	103	94.5
9 無回答	6	5.5
	109	100.0

I 警察

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	6	6.9
2 ある程度信頼している	50	57.5
3 あまり信頼していない	22	25.3
4 まったく信頼していない	5	5.7
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	19	17.4
2 少しは信頼している	62	56.9
3 ほとんど信頼していない	22	20.2
合計	103	94.5
9 無回答	6	5.5
	109	100.0

○ 自衛隊員

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	3	3.4
2 ある程度信頼している	60	69.0
3 あまり信頼していない	15	17.2
4 まったく信頼していない	5	5.7
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	23	21.1
2 少しは信頼している	51	46.8
3 ほとんど信頼していない	25	22.9
合計	99	90.8
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

P 裁判官

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	5	5.7
2 ある程度信頼している	60	69.0
3 あまり信頼していない	14	16.1
4 まったく信頼していない	5	5.7
合計	84	96.6
9 無回答	3	3.4
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	20	18.3
2 少しは信頼している	59	54.1
3 ほとんど信頼していない	20	18.3
合計	99	90.8
9 無回答	10	9.2
	109	100.0

Q23 人間の本性について、どのようにお考えですか。(B票Q27)

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 人間の本性は本来「悪」である	6	3.1
2	4	2.0
3	15	7.7
4	62	31.6
5	46	23.5
6	36	18.4
7 人間の本性は本来「善」である	23	11.7
合計	192	98.0
9 無回答	4	2.0
	196	100.0

Q25 自分の人生を変えるような重大な決断ができると感じていますか。(B票Q29)

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 ほとんどできないと感じている	21	10.7
2 どちらかといえば、できないと感じて	51	26.0
3 どちらかといえば、できると感じてい	84	42.9
4 十分にできると感じている	36	18.4
合計	192	98.0
9 無回答	4	2.0
	196	100.0

J 自衛隊

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	2	2.3
2 ある程度信頼している	57	65.5
3 あまり信頼していない	19	21.8
4 まったく信頼していない	5	5.7
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	25	22.9
2 少しは信頼している	55	50.5
3 ほとんど信頼していない	20	18.3
合計	100	91.7
9 無回答	9	8.3
	109	100.0

K 裁判所

(A: n = 87)	度数	パーセント
1 とても信頼している	7	8.0
2 ある程度信頼している	51	58.6
3 あまり信頼していない	22	25.3
4 まったく信頼していない	3	3.4
合計	83	95.4
9 無回答	4	4.6
	87	100.0

(B: n = 109)	度数	パーセント
1 とても信頼している	24	22.0
2 少しは信頼している	56	51.4
3 ほとんど信頼していない	21	19.3
合計	101	92.7
9 無回答	8	7.3
	109	100.0

Q24 「意図がわかるまでは、その人を信頼してはならない」という意見について、どう思いますか。(B票Q28)

(AB: n = 196)	度数	パーセント
1 強く賛成	12	6.1
2 賛成	53	27.0
3 どちらかといえば賛成	63	32.1
4 どちらともいえない	36	18.4
5 どちらかといえば反対	25	12.8
6 反対	2	1.0
7 強く反対	1	0.5
合計	192	98.0
9 無回答	4	2.0
	196	100.0